

眷指南

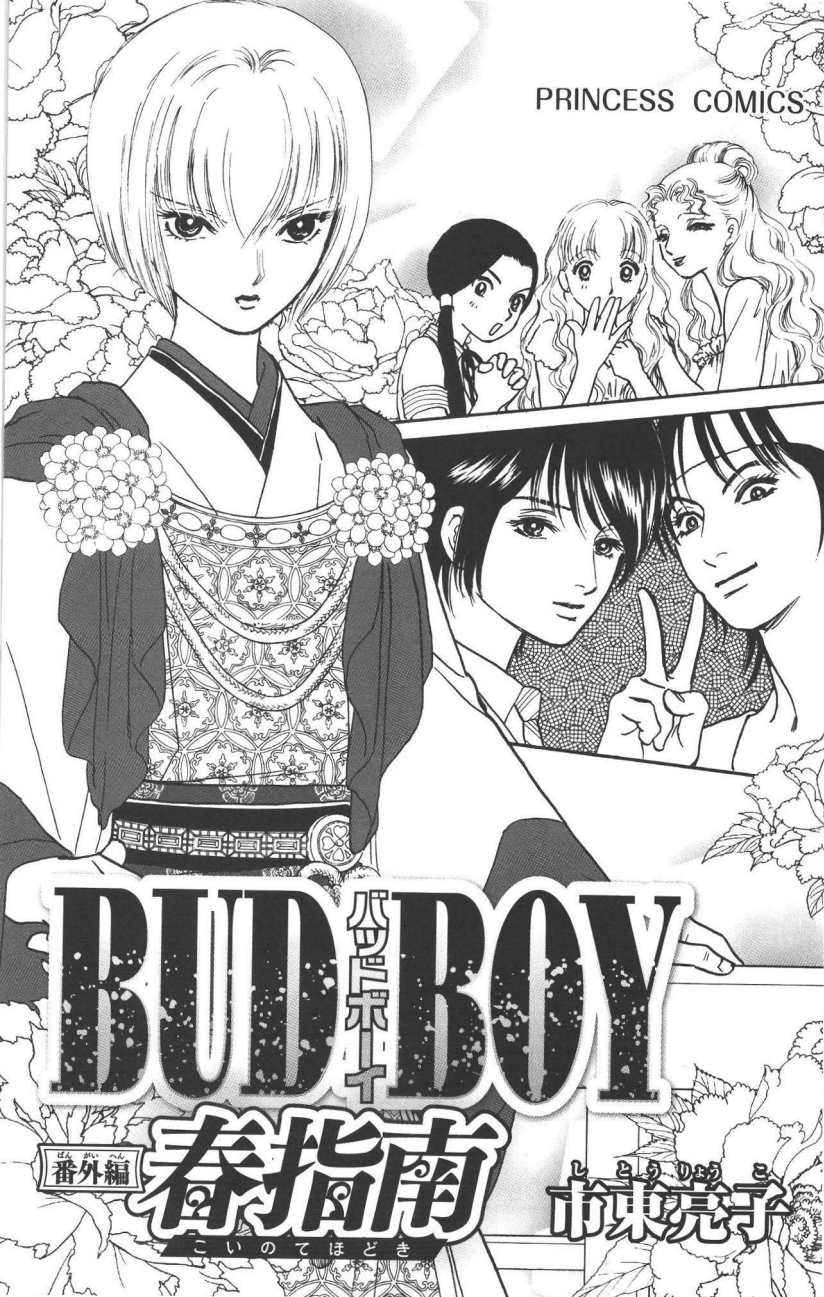
こいのてほどき

BUD BOY
バッド ボーイ

番外編 春指南
ばんがいへん こいのてほどき

市東亮子
Ryoko Shito

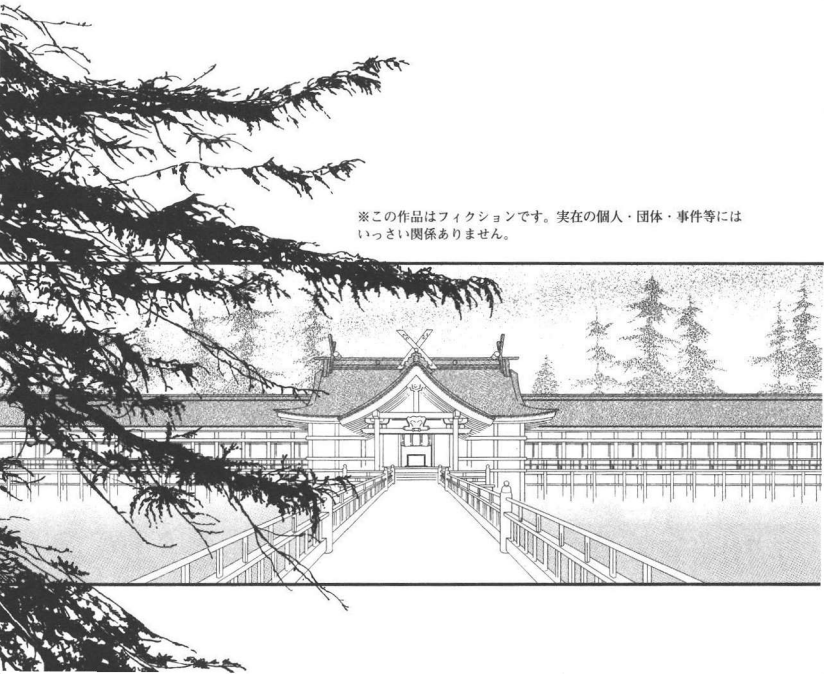
PC
プリンセス
コミックス


PRINCESS COMICS
BUD BOY
バッドボーイ
番外編
春指南
こいのてほどき
市東亮子
しとうりょうこ

もくじ

四姫抄（よんきしょう）　五
宝占卦（ほうせんか）　五五
春指南（こいのてほどき）Ⅱ　一〇五
春指南（こいのてほどき）Ⅲ　一三一

【初出】
四姫抄　プリンセスGOLD 2009年7＋8月号
宝占卦　プリンセスGOLD 2009年9月号
春指南Ⅱ　プリンセスGOLD 2005年2月号
春指南Ⅲ　プリンセスGOLD 2009年10月号



※この作品はフィクションです。実在の個人・団体・事件等にはいっさい関係ありません。


空心鳥の件ではオレもいろいろ考えさせられた…
母上もさぞ苦労をしてこられただろう
…そろそろ
母上に孝行するべきかも…
!!



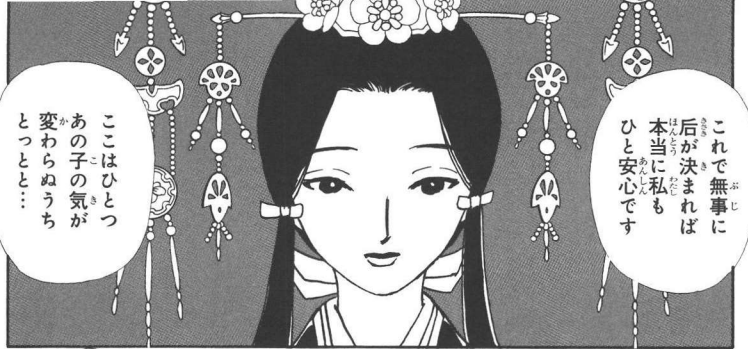

四姫抄


なんですって？
蕾さまが
そのような？
それは真でございますか　透さまっ
ああ…なにげにボソッと…でもなんかマジくさくて…
まーまーまー
とうとうご決心くださったのですね
え…？
け…決心て…？
決まっているではありませんか
母上さまに孝行！
花嫁選びのことにちがいありません！
ぜっ


すぐにお知らせしなくては！
ごきげんよう 透さまっ!!
ちょ…っ
ちょっと 薫さんっ
お――いっ
いつもそれか――っ
…ひょっとして蕾…
今度こそ完全に…
天界に戻っちゃうとか…？
え――っ
なんですって？


皇子さまの后選びをまたやる？
つい先だってその話はお流れになったのではないの？
それが今度はご本人のご希望らしいわよ
どういうことですの？
なんて恐ろしいっ
それは真実かー女どもっ
きゃ
曙橙将軍!?
わな
わな
一大事!!


万儀法師さま〜〜っ
いったい約束の薬はどうなっているのでございますかーっ
もはや一刻の猶予もないでござるよっ
うるさいですよっ曙橙将軍
うっ
焦っているのは私とて同じです
騒ぎたてる前に良き作戦でも考えたらどうです
ザワ
ザワ
天界中があの噂でもちきりでござる

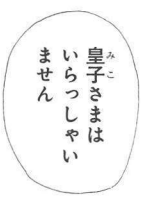

これで無事に
后が決まれば
本当に私も
ひと安心です
ここはひとつ
あの子の気が
変わらぬうち
とっとと…


お気持ちは
わかりますが
錦花仙帝
さま…
少々
気がかりも
ございます


これ
確かめておく
べきでしょう
皇子を
これへ


なんですか？
老伯将
なぜ急に上将が
その気になられたの
か…ということです


ザワ
なるほど
あるいは…めとっても
良いと思われるような
乙女が現れたのでは…
…とも…


皇子さまは
いらっしゃい
ません


え…
どちらへ…？
さあ…
いつものように
気がついたら
お姿がなく……
また下界へでも
おいでです？
ちっ
あら〜ん
万儀法師さま
いらしてたのぉ？
これは曄姫
ごきげんよう
やはり　あなたも
気になって聞きに
いらしたのね
無理もないわぁ
まさか　あの花将さまに
意中の方がおいでなんて
意中の!?
ここんとこ
顔見て
ないよ…


透どのの所へも？
あっ
曄ちゃま
萌ちゃま
おぉ 夕姫!!
久しぶりぃ～
お待ちになってぇ～っ
ドドドド
聞いたわよ 萌ちゃま 薔ちゃまが大変らしいじゃない？
そうなのだ
で？ 萌ちゃま どうするの？
むろん
あぁ～ん
あっ
東皇使さま♡
阻止する!!
あの…


俺も協力する
お兄ちゃん!?
透どのっ
そのほう
いいヤツだったん
だなっ
なんと心強い
あなたが
エサなら
いつでも
花将さまが
ついてますもんねっ
…いや…だって
俺だって…
それにしても
肝腎の蕾本人は
いったいドコに
行っちゃったんだ?
えっ 蕾ちゃまなら
小蓬萊に行くって
言ってたけど
酔姫さんに
話があるって…
ナヌ!?
まー
まー
まー♡


蕾さまの
花気を追って
来てみれば
なんとまあ…
なかなかに
声をかけ
にくいほど
よいムードでは
ありませんか
行くぞ
酔姫
はい
ではまた
しばし頼んだぞ
承知
これ！ そこの者
こっ…これは
老伯将
妙香花仙さま


上将と酔姫は連れだってどちらに向かったのだ？
…さあ…
知らぬのか？
…申し訳ございません
ここのところ毎日のように上将が酔姫主将をおたずねなのですがしばらく話し込んだと思うと…
必ずおふたりでどこかへ行ってしまわれるのです
先だって「どちらへ？」とお聞きしましたら上将がニヤリとされて
「秘密だ聞くな」…と……
ほ…
…酔姫…か…
これは盲点でしたねぇ…
…なるほど…考えてみれば最も無難な…
いつの間にねえ…


ですが
そう思うと
何てお似合いな
なっ…
なんとっ
なっ なっ なっ
なんとっ!?
…なんとなく…
あの流れから
すると…
ヘェ――っ
酔姫さん?
あぁくん
お似合い
ですわぁくん
むっ
えっ
ほぼ決ッ!?
いっぺん こいつ
殴ってもいいか
まぁ～ん
こわぁ～い
はーっ
まーっ
まーっ
うーん
マズイわ
ブツブツ
マズイわ
マズイわ
ああ――っ
上将ッ
上将があ～っ


だいたい おかしいじゃないかッ
酔姫でいいなら俺でもいいはずだっ
カン カン
イミわかんない
あんた男だろ
ハロー
キラーン
ん？
すばらしいわっ
よいヒントをくれました曙橙将軍！
え…？
一刻も早く性転換薬をつくりましょうっ
だーーー
えっ♡
万儀法師さま某 なんでもいたしまするーっ
きゃうん
きゃうん
……


…お兄ちゃんは
蕾ちゃまの幸せを願ってないの？
…酔姫さんなら…お似合いじゃない
似合う似合わねーじゃねーよ
あいつ まだ子供だぜっヨメさんなんてっ
その言葉は本心じゃないよね
お兄ちゃんは蕾ちゃまとお別れしたくないだけよ…
蕾ちゃまは外見は子供だけど本当は立派な若者
……！
お兄ちゃんは本当の蕾ちゃまを見たんでしょ？


……
お兄ちゃんのほうが…
子供ね…
うるせーっ
カッ
ぐぐぐ
曄ちゃま
東皇使さまを見失ってしまったわぁ〜ん
ひ〜ん
あの声は
曙橙将軍は萌ちゃま追って行っちゃたし…
あいつ職務怠慢だな
じゃあ あたしも一緒に捜してあげる
ありがとう 夕姫
ぜい ぜい
東雲さぁ〜ん
お兄ちゃんはお別れしたくないだけよ
そう…
夕姫の言うとおりだ

今までだって何度も
もうこれまでなんだって
思ったことあったけど

そのたびに

あいつはまた
いつもどおり
現れてくれた

いられないんだろうなって…

きっと…
いつまでもこのままじゃ

……

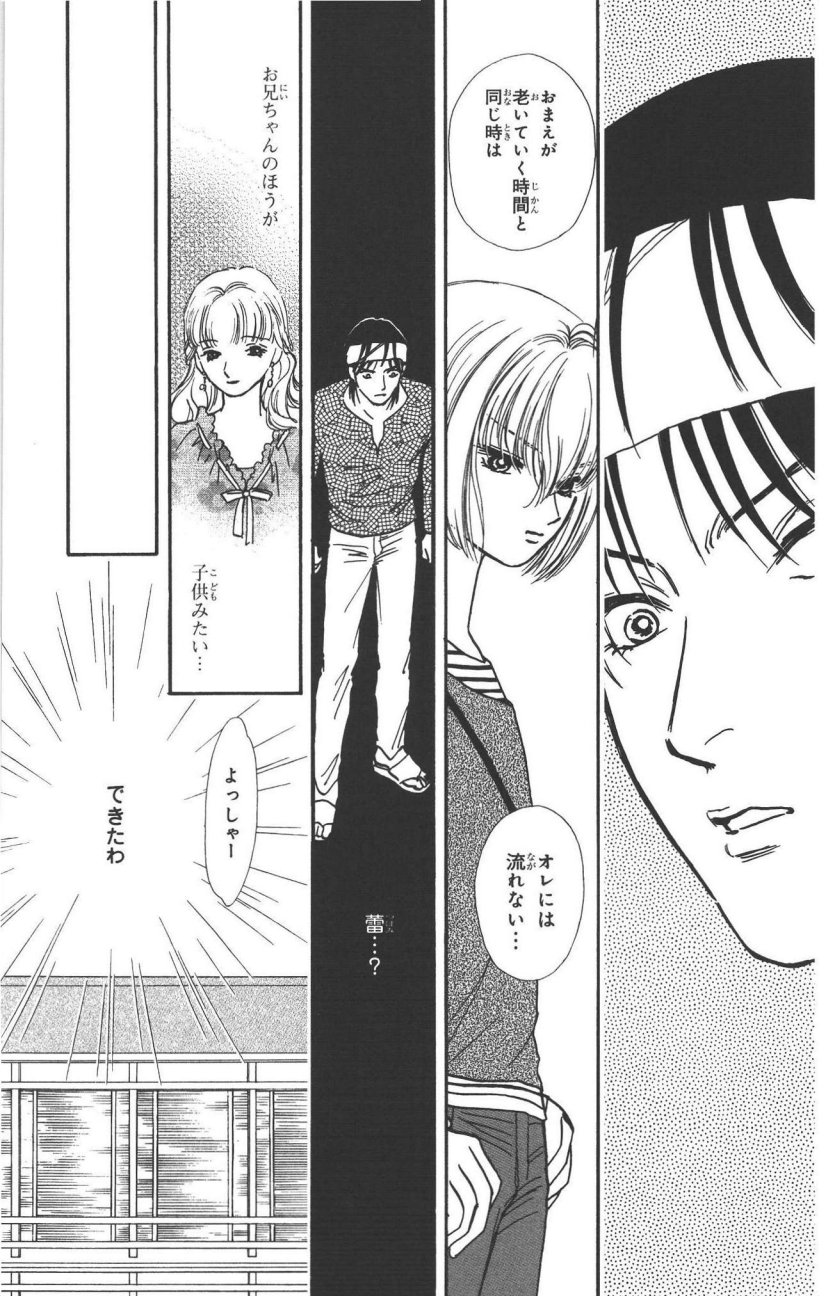
でもさ…俺…ずっと
心の奥底では…

…なんとなく
感じてたんだよな




もうすぐ…
コポ
もうすぐ完成よ
コポ
あぁ〜 お急ぎください 万儀法師さま 某を天界一の美女にするために…
ん？
何 寝言を言っているのですか 曙橙将軍！
これは別にあなたのために作っているわけではありませんよ
えぇ
これは異なることを…ではいったい誰のために
酔姫将軍です
えっ!?
酔姫将軍が男になってしまえば花将さまとは結婚できません
何よりも今 最も早急にやるべきことは
とりあえず
阻止!!
そ…そうか…
そうかも…


なんだ 透 浮かない顔を しているな
そりゃ浮かない顔にもなるわ
なあ蕾… やっぱさ
いつかはおまえ 完全に天界に 戻っちゃうんだろな
ガサ
なんだ… 何か あったのか
どうしたんだ 急に
だってよ…やっぱおまえは天界の皇子さまだもんな
…以前 言ったはずだ
いつでもどこにいても
オレはおまえが 呼べば来る
だが おまえは 考えたことは あるのか？
最終的には
置き去りに されるのは オレのほうだと…


おまえが
老いていく時間と
同じ時は
オレには
流れない…
蕾…？
お兄ちゃんのほうが
子供みたい…
よっしゃー
できたわ


あとはこれを
ふーっ
ひと晩ねかせて熟成させれば…
いいこと
私が戻るまで誰も手を触れないように
わかりました
さて
資料
資料
やあごきげんよう…
これは東皇使さま…
あ…
そちらは…
わかっているよ
ただ見るだけだ
あんまり萌葱が一生懸命なので感心して覗いてみたくなったのだよ
適当に見たら去るから気にしないでおくれ
では
ええ!?

どうせまだきっと
ろくでもないことを
もくろんでるに
ちがいないからね

中身はあとで
じっくり分析
するとしよう

バサ

バサ

酔姫将軍を男にしといて
とりあえず邪魔者の
除外まではいいとして
問題はいかに自分が
花将さまの心に入り込むか…よね

…やっぱり
そのためには
こんなやあんなふうに
劇的な要素を
盛り込まないと

フニ

ノーン

恋に落ちたりは
しないものよね

ラブロマンスの
小説や漫画を
読みあさって

「恋」の勉強を
しているつもりかね？

ぎゅ

叔父さまっ!?

おおかた
夕姫ちゃんにでも
借りたんだろう

あっバレバレ？


萌葱…ひとつだけ教えておこう
最も大切なことだ
百術は一誠にしかず…だよ
よけいな小細工をせずに素直に
蕾に告白しなさい
あなたの后候補に加えてほしい…と
直接
正直に
えっ
なぜ…？
そんな…
そんなこと…
抵抗を感じるかね？
えっ…
ええっ
なぜ…？
あ――っ
いったいなぜなのでしょうっ
すー
それがわかればかなりの進歩だ

そうしたら東皇使を継げますか？

まあ…ワンランクアップかな…

ががが がんばりますっ

あ…

でも なんだか…

直接…

正直に…

ドッキン ドッキン

考えただけで

なんなんでしょーっ このむやみな緊張感と えもいわれぬ妙な感覚…

……

…デ…

データをとっておかなくては…

でも…たしかに叔父さまの言うとおり先手をうつのは大事なのかも…

相手にも周囲にも

でででも…っ

でもでもでも

あ――っ どどどーしよ


ザワ
あら 花将さまだわ
ヒソ
まあ お珍しい
お姿を見かける なんて何か月ぶり
ホラ…きっと あのせいよ…
どうせなら おふたり
ヒソ
ヒソ
連れだって おいでに なれば…
ねえ——っ
…なんだ？ この…
イヤな空気は…
ああ——っ
花将さま——っ
？
細？


はあ
はあ
花将さま…
よいところへ
どうしたのだ
じ…実は…
何？
曄が戻ってこない？
ええ…ええ…
下界に東皇使さまを捜しにいかれたきり…
なのに…見れば東皇使さまはとっくにお戻りではありませんか
いつからだっ
ピチュ
ピチュ
はあ
はあ
東皇使さまはいずこぉ～
はあ
やれ
東皇使さまや～い
はあ


えっ 曄ちゃまが 戻ってない？
それは大変
あたし てっきり 東雲さんか 橙士さんと ご一緒かと…
途中から誰もいなくなったから
ごめんなさい もっと気をつけて なきゃいけないよね
まあ待て…
この山の周辺には 結界が張ってあるし 薫ほどの感度ではないが 集中すればオレにも曄の 花気をたどることはできる
すぐ見つかる？ 曄ちゃま… 何事もなければ いいけど…
今のところ 救いを求める 波動は感じていないが…
結界があるなら 大丈夫だよな …まあ…そう なんだが……
結界といっても 比較的 害のない 下ッ端は入れる ようになってる
ああ…そっか時々 来尾もくるしな…
時の経つのも忘れて東雲を 捜し求めているのだとしたら ひょっとして 何かに憑かれて いるのかもしれん
えっ
そんな…曄ちゃまが？
ひとまず 捜しに いってくる
気をつけてなー

お久しゅうございます

妙香さま
老伯将

…何かございましたか？

…そなた…

蕾さまをどう思っていますか？

それはもちろん心より敬愛し

いついかなる時にも上将のおためならば命を捧げる覚悟でございます

なるほど

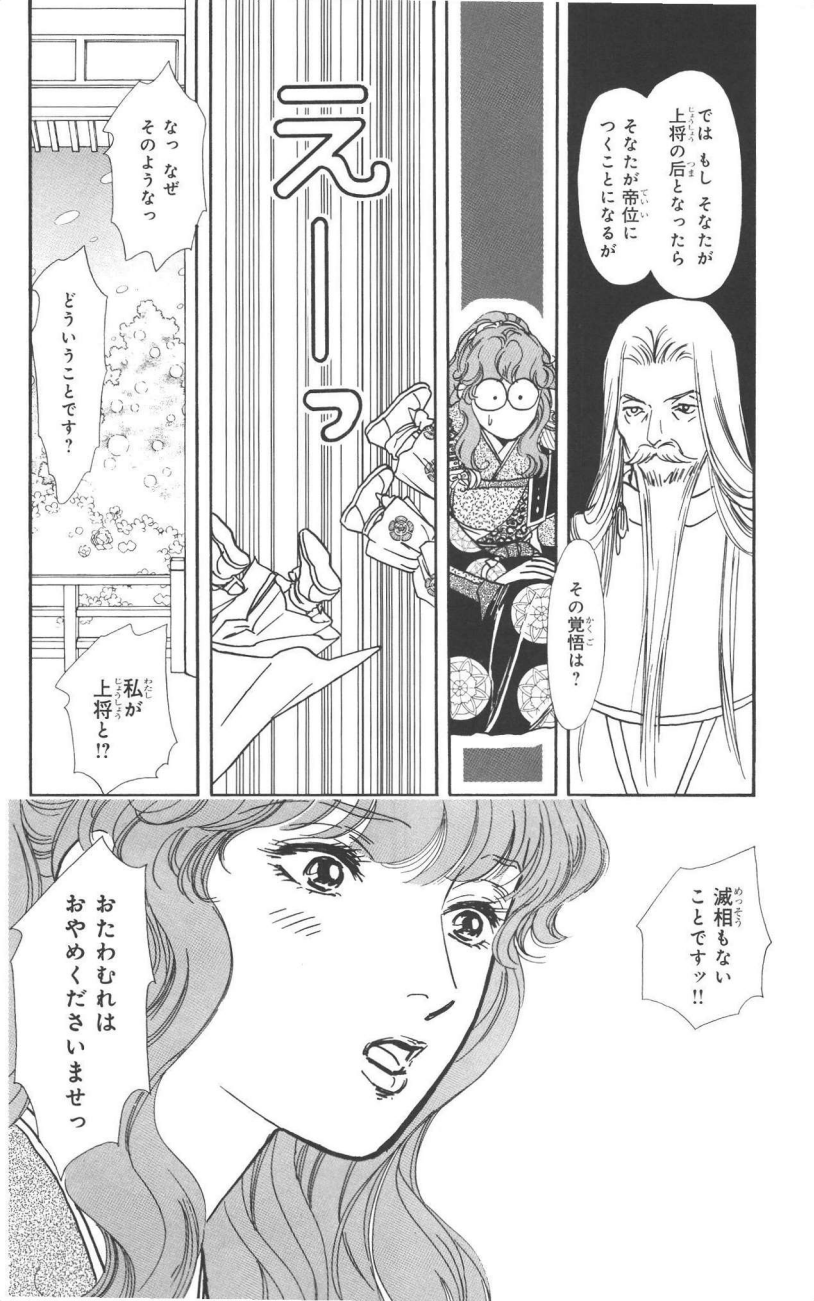
えー コホン

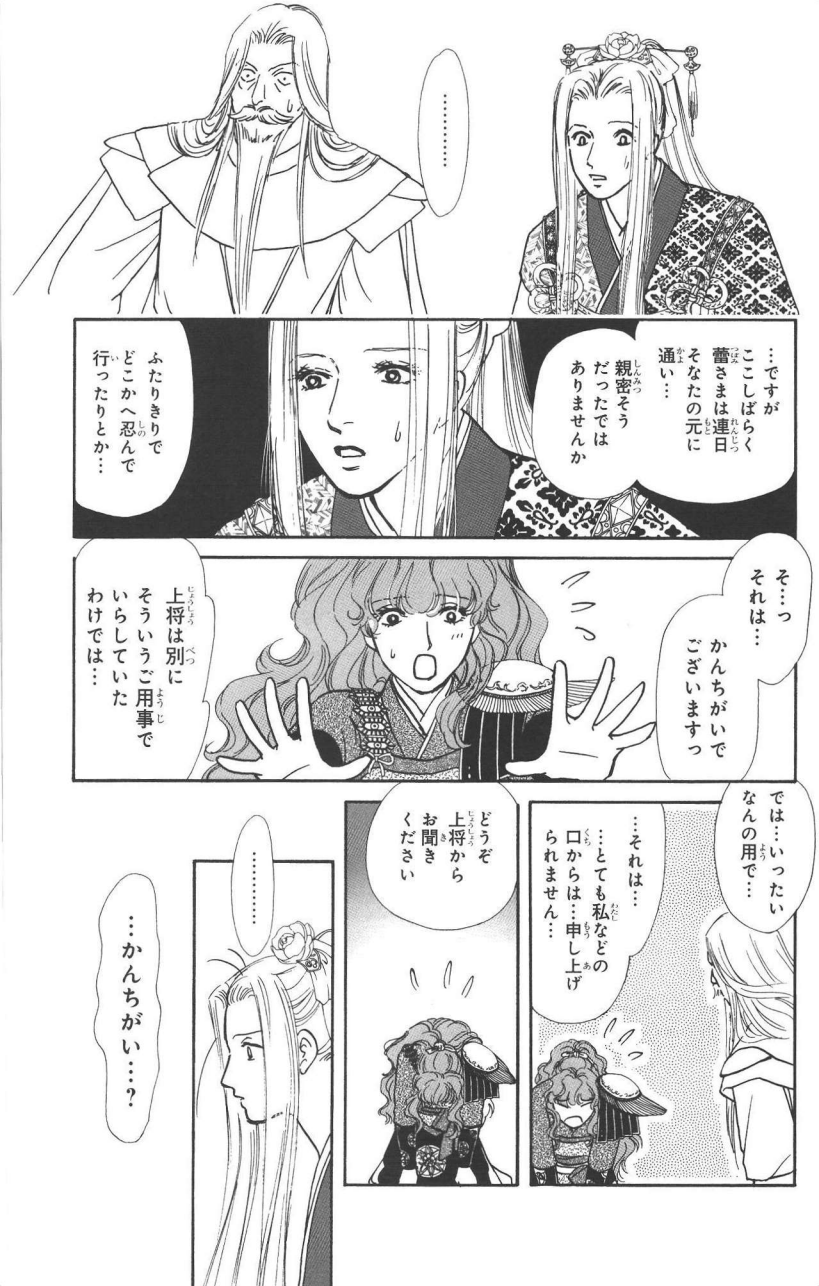
突然のお呼び出し

そなたを呼んだのは他でもありません

いろいろと確かめておかなくてはなりませんから

？


では もし そなたが 上将の后となったら そなたが帝位に つくことになるが
その覚悟は？
ええーっ
なっ なぜ そのような
どういうことです？
私が 上将と!?
滅相もない ことですッ!!
おたわむれは おやめくださいませっ


……
…ですが
ここしばらく
薔さまは連日
そなたの元に
通い…
親密そう
だったでは
ありませんか
ふたりきりで
どこかへ忍んで
行ったりとか…
そ…っ
それは…
かんちがいで
ございますっ
上将は別に
そういうご用事で
いらしていた
わけでは…
では…いったい
なんの用で…
…それは…
…とても私などの
口からは…申し上げ
られません…
どうぞ
上将から
お聞き
ください
……
…かんちがい…？

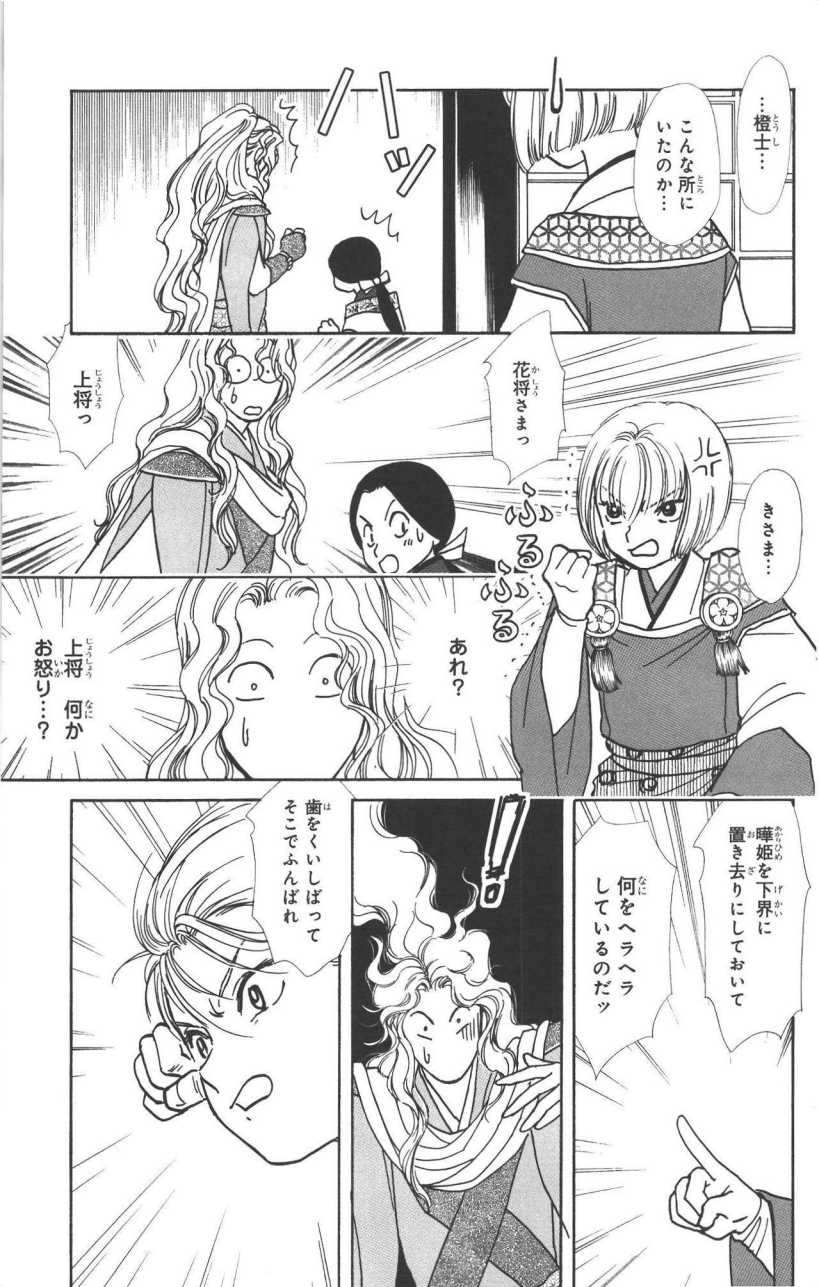

へな
へな
妙香さまっ
ああ…
私としたことが…
錦花仙帝さまになんとお詫びしたらいいか…
妙香さまっ
東皇便
さまぁ～
さま～
はぁ
はぁ
ふら
ふら

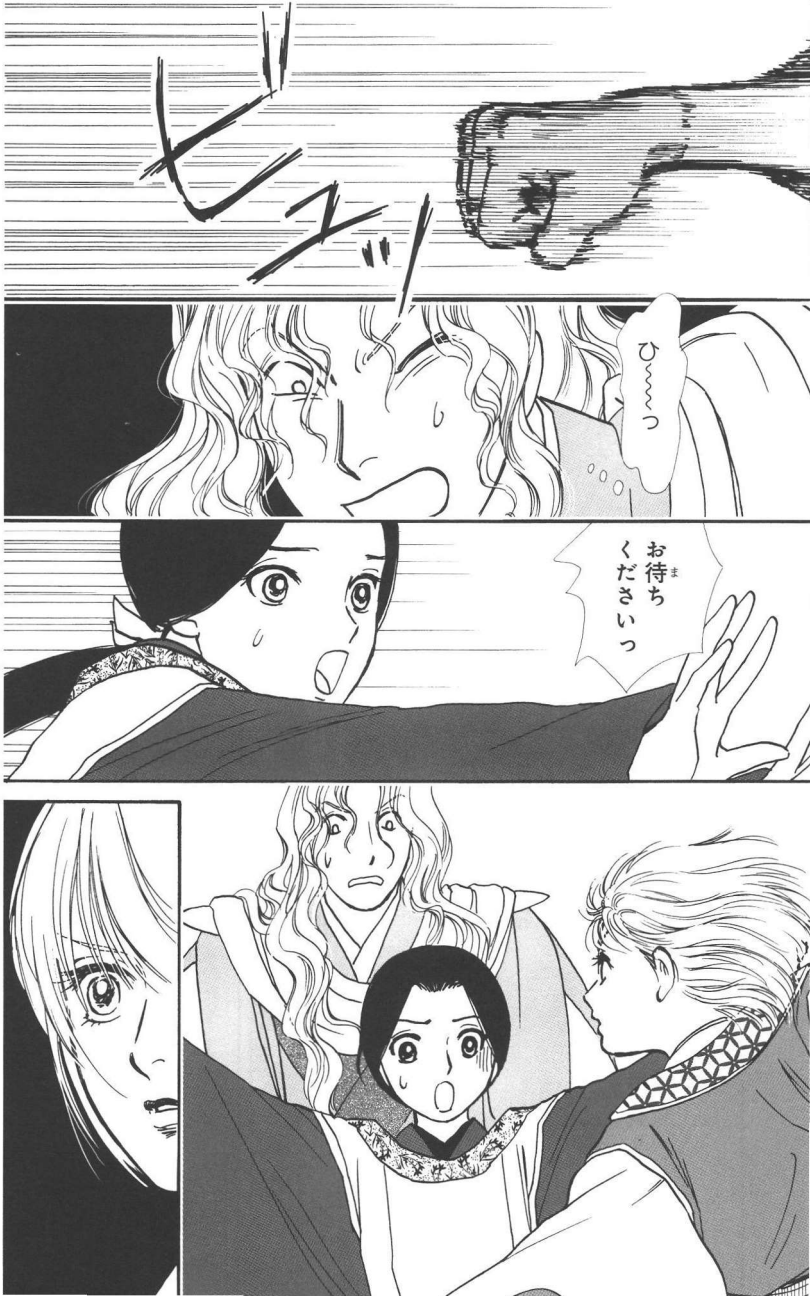

……
あ…
なぁ〜んら…
花将さまかぁ〜
ぱっそり
も〜っ
ふら
……
東皇使さまったらぁ〜
ろこ行っちゃったのぉ〜ん
あっ
東皇使さまっ
ザッ
あいつか…
原因は
なんだ あいつ…
さっきから ずっと 同じ所を ぐるぐると…
ふら
ふら
東皇使さまー
みーっけ
あぁ〜ん ちがぅ〜


くらら
あんっ
へりっ
きゃんっ
キィ
キィ
え…っ
な…
なに…
ひょれ…
くらら
あぁ…
パサリ
キィ
キィ


蕾ちゃま！
囁ちゃま見つかったの？
ああ…心配かけたな
オレは囁を天界に届けに行ってくる
あ…ああ…
心配するな
キィ キィ
透…こいつをツボにでも入れて
今度来尾がきたらくれてやれ
また戻ってくるから
……
……
…お兄ちゃん…


万儀法師さまっ!!
そうです アレは ガセだったのです
ナシ?
上将と酔姫の件は ナシになりました♡
周囲がかんちがいして勝手に盛り上がっていただけで当の本人たちはまったくそんなつもりはなかったということです
本当ですかっ
邪魔者は抹消されたということね
お聞きくださいませ 万儀法師さま♡
吉報です
何事です 曙橙将軍
そのように息はずませて


…橙士…
こんな所にいたのか…
ハッ
花将さまっ
上将っ
きさま…
ふるふるふる
あれ？
上将 何かお怒り…？
曜姫を下界に置き去りにしておいて
何をヘラヘラしているのだッ
歯をくいしばってそこでふんばれ


ヒュッ
ひ～～～っ
お待ちくださいっ


花将さま…どうか
お怒りをお鎮めください
万儀法師どの…
たしかに曙橙将軍は
少々うかつかも
しれませんが…
ここは私の
庵でございます
むっ
どうか私に免じて
お手を上げるのは
ごかんべんくださいませ
行くぞ
橙士！
…は…っ
あっ
花将さま！
…何か？
あ…
あのっ…
素直に蕾に
告白しなさい
えーと…
たしかに…
ご無礼を
部下のしつけは
ご婦人の目のない
ところでいたすべきだな


あ…
直接
正直に
あれ？
なぜ…？
ドキン
なぜ こんなに
言葉が出て
こないの？
どうかされ
ましたか？
万儀法師どの
この不可解な
情動は…？？？
わた…
私は…
…私の…
？
かあっ
私はもっと
花将さまのことを
知りたいのですっ

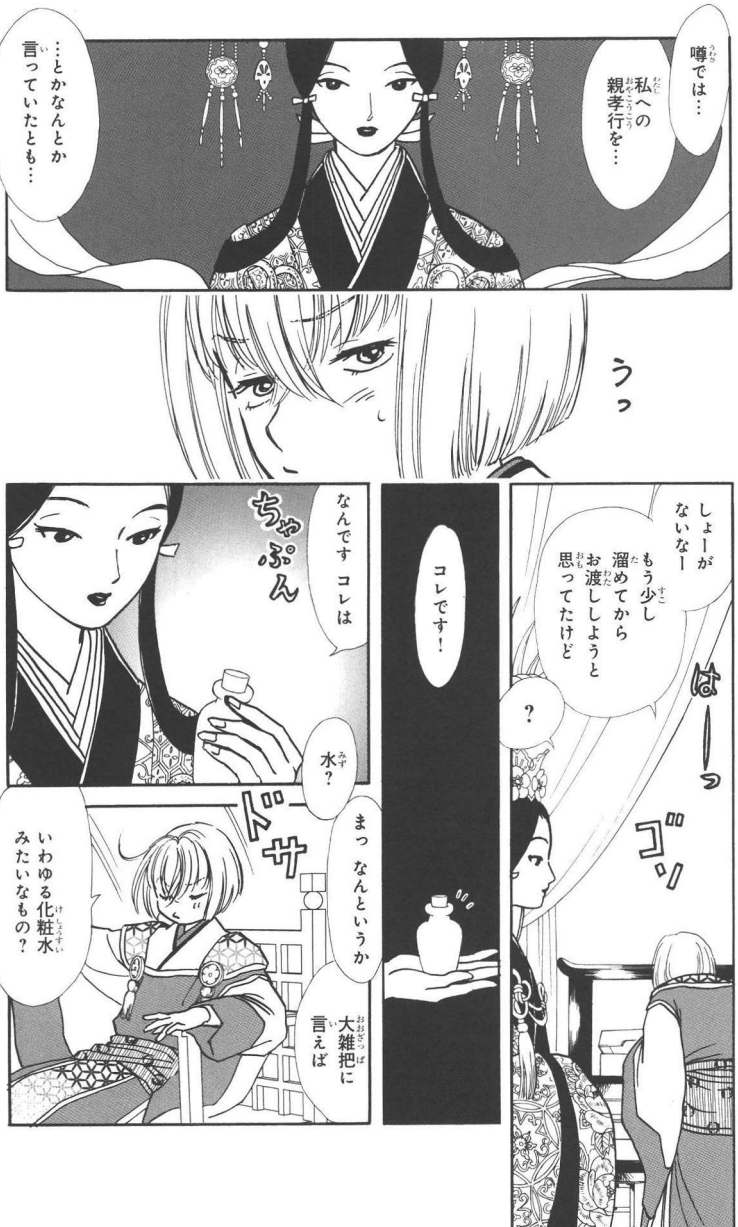

わけあって　あなたさまに
興味を抱き　いろいろ
調べてまいりました
わ――っ
何言ってんだ私ッ
まったくもって面白うございます！
あなたさまもあなたさまを取りまく方々も非常に理解しがたく
興味がつきません
口が勝手に…
願わくばもっと近づきもっと知りとうございますっ
いうなれば接近したいのです
接近をご許可くださいませんかっ


はあ
……
……
はあ
よろこんで
万儀法師どの
で…？
どの程度の接近を
マジ？
お望みか？
えっえっえっ


嚊姫や…
夕姫よりも…
…と申し上げたら
えーい こうなったら
やぶれかぶれ
チョーシに乗りすぎでしょうか…
少しも！
上将ッ!?
じゃっ
また後ほど
ニ一つの
おしおき
しないと
……
ズルズル


へたり
……
叔父さまの言ってらしたとおりだわ
百術は一誠にしかず…だ
…でも…
どうしても
どうしても
言えなかった
お后候補に加えて…なんて
なぜ…？
それがわかればかなりの進歩
わからないわ…
でも これが今の私には
精一杯……


ナニ!?
オレと酔姫がッ!?
いったいどこのバカだッ
そんなかんちがいしおったのはっ
バカ
バカ
バカ
では足しげく酔姫の元へ通ってたびたびふたりきりでどこぞに消えたというのは…?
ん?
母上!?


噂では…
私への親孝行を…
…とかなんとか言っていたとも…
うっ
しょーがないなー
もう少し溜めてからお渡ししようと思ってたけど
？
はーっ
ゴ
コレです！
なんですコレは
ちゃぷん
水？
ドサ
まっ なんというか
大雑把に言えば
いわゆる化粧水みたいなもの？


は？
蓬莱の花園で
その年 初めて咲く
花の朝露には
若返りの薬効が
宿ると聞いたもので
各地の蓬莱を
よく知る酔姫に
情報をもらって
集めたのです
これを……なぜ
私のために……？
以前 たしか
母上が鏡を
ご覧になって
ため息をついて
おられたと
そんな噂を
小耳にはさみ…
いやー とうとう
母上も小ジワを
気にされるように
なったのだなと
…な…
フルフル
いや…オレは
母上は今でも
充分イケてると
思いますが…
早めにケアして
おくにこした
ことはないと…
小ジワも
できるわ——っ
誰のせいじゃ——っ
ドカーン
ああ…
錬花仙帝
さま…


ボロ
万儀法師さま…
あら
曙橙将軍…
ぬ…ぬけがけはひどいでござる…
まっぬけがけだなどと…正攻法ですわ
お願いでござる…
…例の薬を某に……
ああ…
そうね…そもそも酔姫将軍に使う必要がなくなってしまったのですものね
せっかく造ったものだし……
いいわ
曙橙将軍には日頃何かとお世話になっていますから
差しあげます
えっ
まことでござるか？
ええ


とうとう……！
とうとう
この日が…ッ
ぐびぐび
これで上将は
俺の……
し～ん…
……
失敗ッ!?
…まったく…
どいつも
こいつも
どうか
している


どうも仙女たちの様子が変だとは思ったんだが…
まさかあんな…
まあまあ…君もね
誤解をまねくような行動はしないことだね
しかしアレだな
おまえのあの姪っ子
萌葱がどうかしたかね？
ああ…なかなか…
ん？
面白いな
えっ…
あっ 蕾ッ
それはっ
うわぁぁぁ
何じゃあこりゃあ〜
その手があったか！
四姫抄／完

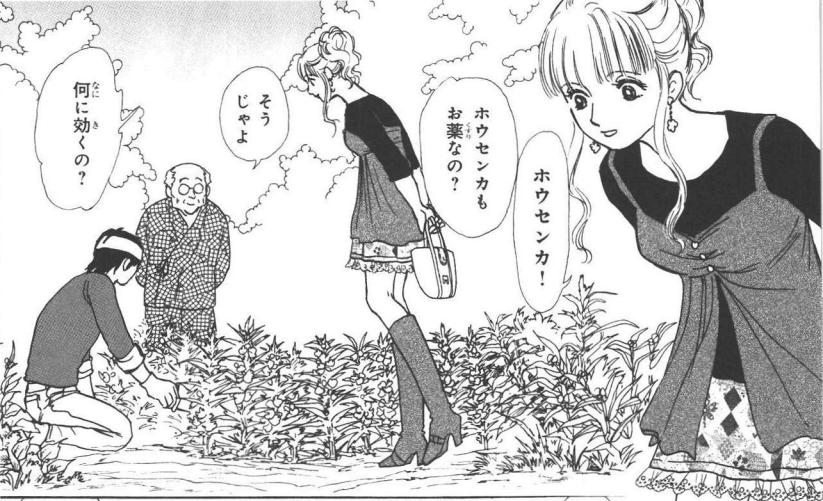

宝占卦


わっ
かわいいーっ
ホントに自分でやったの？
ネイルサロンでやったみたい
すごーい
さきちゃん器用だもんねーっ
えーっ教えて教えて
どうやんの？

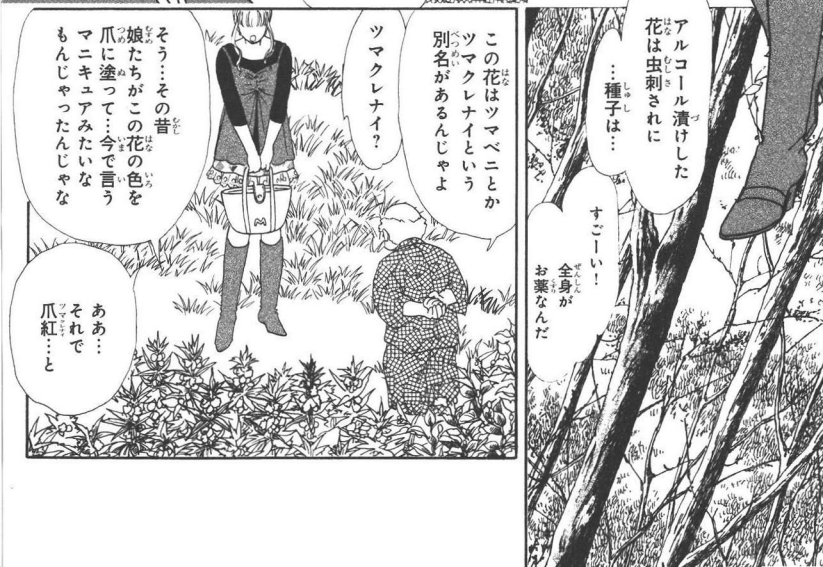

……
……？
…気の
せい……？
ねーねー
夕姫もやってもらえば？
あ…
そーだよせっかくだから
例のお兄ちゃんにアピールアピール♡
…でっ…でも…ピアスしてたのすら気づいてくれなかったのに…
そこはそれ！目につくようにチラチラ出すのよ!!
じゃあ…やってもらっちゃおかなっ
おっけー♡明日グッズ一式持ってくるよ
さきちゃんわたしも――っ
おせーてっ
おせーてっ
きゃっ
きゃ♡
……


じゃーねー
…なんだろう…
変なカンジ…
…どうも
ここ数日……
誰かに見られてる
みたいに感じちゃう…
自意識過剰かなー

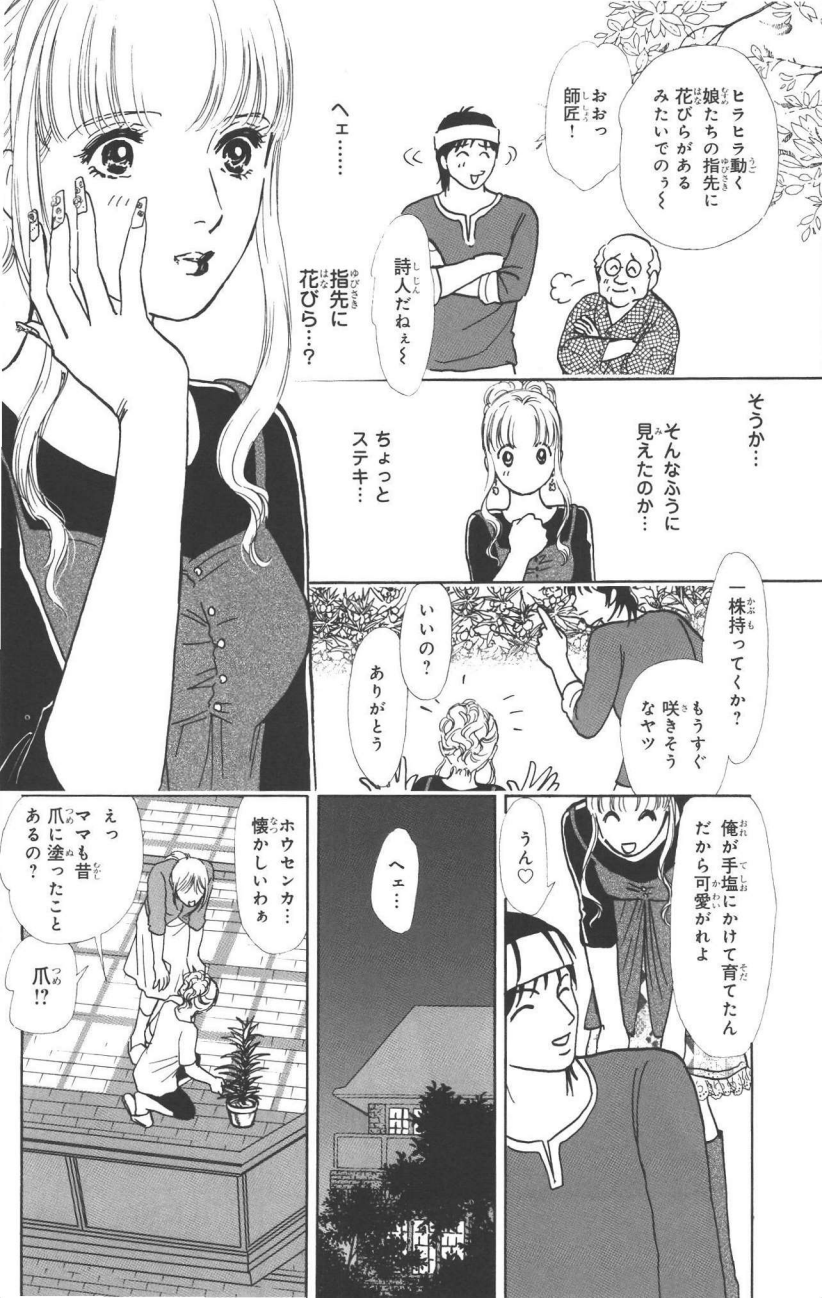

月のうたげ
株式会社
……ふ…ん…
……
プシュー
あの娘か……
ああ…
行動範囲はもうだいたいおさえた…
…あ…


ホウセンカ！
ホウセンカもお薬なの？
そうじゃよ
何に効くの？


透！
言うてみい
干した葉っぱを煎じれば風邪薬
生の葉っぱは腫れものに効く


アルコール漬けした花は虫刺されに…種子は…
すごーい！全身がお薬なんだ
この花はツマベニとかツマクレナイという別名があるんじゃよ
ツマクレナイ？
そう…その昔娘たちがこの花の色を爪に塗って…今で言うマニキュアみたいなもんじゃったんじゃな
ああ…それで爪紅…と


いいもんじゃよ
若い娘の…こう
スルッとした白い
指先にほんのりと…
へーそうなんだ
いいじゃん 夕姫
ちょっとおまえも
塗ってみろよ
わっ
なんだ
このツメ
何よそのハンノー
かわいいでしょ♡
ネイルアートよ
友達にやって
もらったの
ああ
ネイルアートね
ほほう…最近の若い娘ッコどもは
そーゆーオシャレを楽しんどるのか
まあ…
かわいいっちゃ
かわいいけど
不便そう
だな
ハナクソほじる時とかアブネーし
しませんっ
そんなこと。
今みたいに
いろいろなモノが
なかった時にはな
ホウセンカで染めた
娘たちのツメを見ても
何やらドキドキ
したもんじゃよ


ヒラヒラ動く
娘たちの指先に
花びらがある
みたいでのぅ〜
おおっ
師匠！
詩人だねぇ〜
ヘェ……
指先に
花びら…？
そうか…
そんなふうに
見えたのか…
ちょっと
ステキ…
一株持ってくか？
もうすぐ
咲きそう
なヤツ
いいの？
ありがとう
俺が手塩にかけて育てたんだから可愛がれよ
うん♡
ヘェ…
ホウセンカ…
懐かしいわぁ
えっ
ママも昔
爪に塗ったこと
あるの？
爪!?


何それ
知らないの？
昔の人はこれを
マニキュア代わりに
して塗ってたって…
え――っ
知らない
そんなこと！
ママたちの世代は
もっぱら種占いで
楽しんだものよ
種占い？
そう…ホラ
花占いって
あるじゃない？
一枚一枚
花びら取って
「好き…嫌い…
好き…」って…
あれと似た
ようなもんで
よく熟れたホウセンカの
包みに触れて
種を弾けさせるの
そのとき　こう
ちょっと下のほうで
掌で受けとめて
とれた種の数で
占うのよ
一粒だったら片想い
二粒だったら脈あり
三粒だったら
ライバル出現


四粒以上なら
恋は実る…って
ママもオトメ
だったんだ——
そりゃ
そうよ
それ あたしも
やってみたい♡
けっこう
ムズカシイのよ
でも そこにあるのは
お花もこれからだから
種はまだまだね
ねーねーママ
どのくらいで
弾けるの
……
なんだって？
夕姫にまた
ストーカー？
ああ
だが今回は
ワイ
ワイ
前回とは…だいぶ…
おもむきが違う


…立花夕姫さま…
…ですね……
ハッ
ドカ
ドカ
……


!!
あ…
お兄ちゃん…
神田さん
なんだね
ノック
くらい…
あんた いつから
探偵に転職
したんだよ！

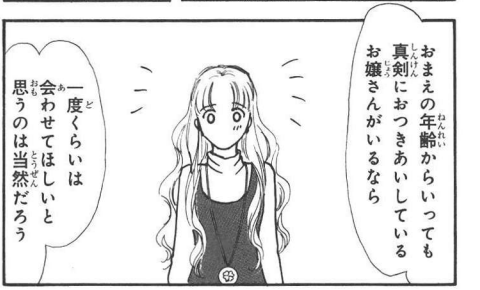

オヤジ…
あんたが命じたのか？
透さん…
これにはワケが…
落ち着いて…かけなさい
…お兄ちゃん…
いつもと違う…
なんだか…怖い…
私が神田君に頼んだんだ
一度このお嬢さんに会ってみたかったから
なんで俺になんの相談もねーんだよっ
何度もしたよ…


留守電も入れた
メールも出した
手紙もだ
それらはことごとく
削除されていた
…ということかな…

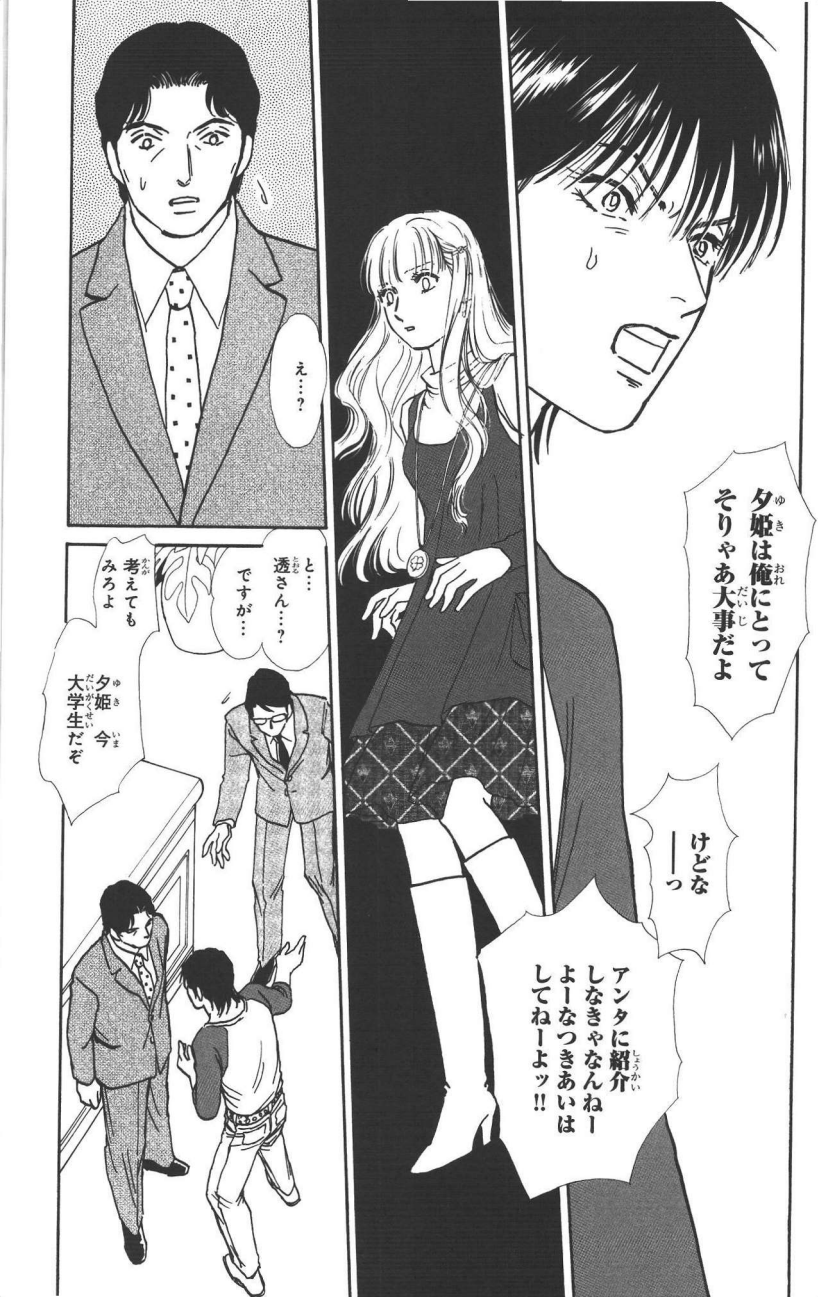

……
透さん…


おまえに会社を
継ぐ意志がまったく
無いのはもう
よくわかった
だが あくまで
ひとり息子なんだ


親としては
誠実に対応
したいと…
はぁ〜っ?!
何言ってんだよ アンタ


おまえの年齢からいっても
真剣におつきあいしている
お嬢さんがいるなら
一度くらいは
会わせてほしいと
思うのは当然だろう


勝手に
もりあがってんじゃねーよ


夕姫は俺にとって
そりゃあ大事だよ
けどな
――っ
アンタに紹介
しなきゃなんねー
よーなつきあいは
してねーよッ!!
え…?
と…
透さん…?
ですが…
考えても
みろよ
夕姫 今
大学生だぞ


いずれそのうち
俺なんかより
もっと好きな相手が
現れんだろーよ
早とちりすんな！
行くぞ夕姫!!
ぐい
…あ…
あ…ちょっと待ちなさい…
…透さん…
早とちり…？
…お兄ちゃん…
…お兄ちゃん…



…たくっ








…う…
う…
も…大丈夫だからな
……たの…？
え？
泣くなよ
ゴメンな
お…おい 大丈夫か？
怖かったンか？
夕姫…


…ずっと…
ずっと そ…
そんなふうに思ってたの？
…あたしのこと……
夕姫(ゆき)!?
あっ
コラッ
ガ


待て！
走るなッ
夕姫!!
す…
夕姫のことはまかせろ
雷…


……
透さん…
あ…お…
送ります…
はあ
クルマで…
いらねーよ！
透さん
社長は…
オヤジに言っとけ
今度
余計な
マネしやがったら…
お父さまは…
しばらく
日本を
離れるので
…それで…
はあ
日本を離れるう？
いつもの出張とは
違うっつーの？
ホントに
何もかも目を通して
ないのですね…

今のこのご時世…
世界的な不況も
ありますので
海外のあちこちの関連企業に
現地視察やらトップ会談やらで
行ったり来たりも含め…
もう…どのくらい会えなく
なってしまうものやら…

……

少しは社長の
お気持ち
汲んでもらっては…

わかったよ

どなって悪かったって
言っといてくれよ

…それから

過労でブッ倒れん
なよ……ともな

透さん

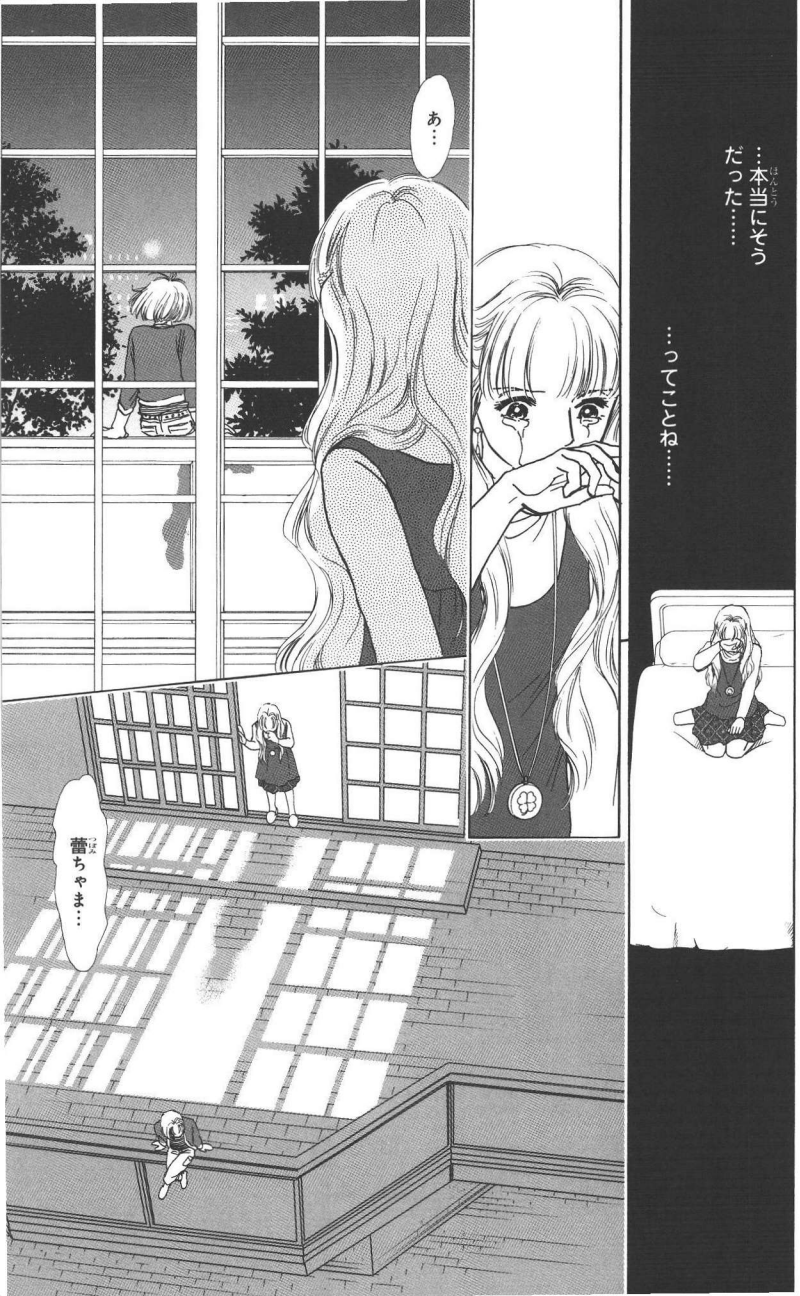
……

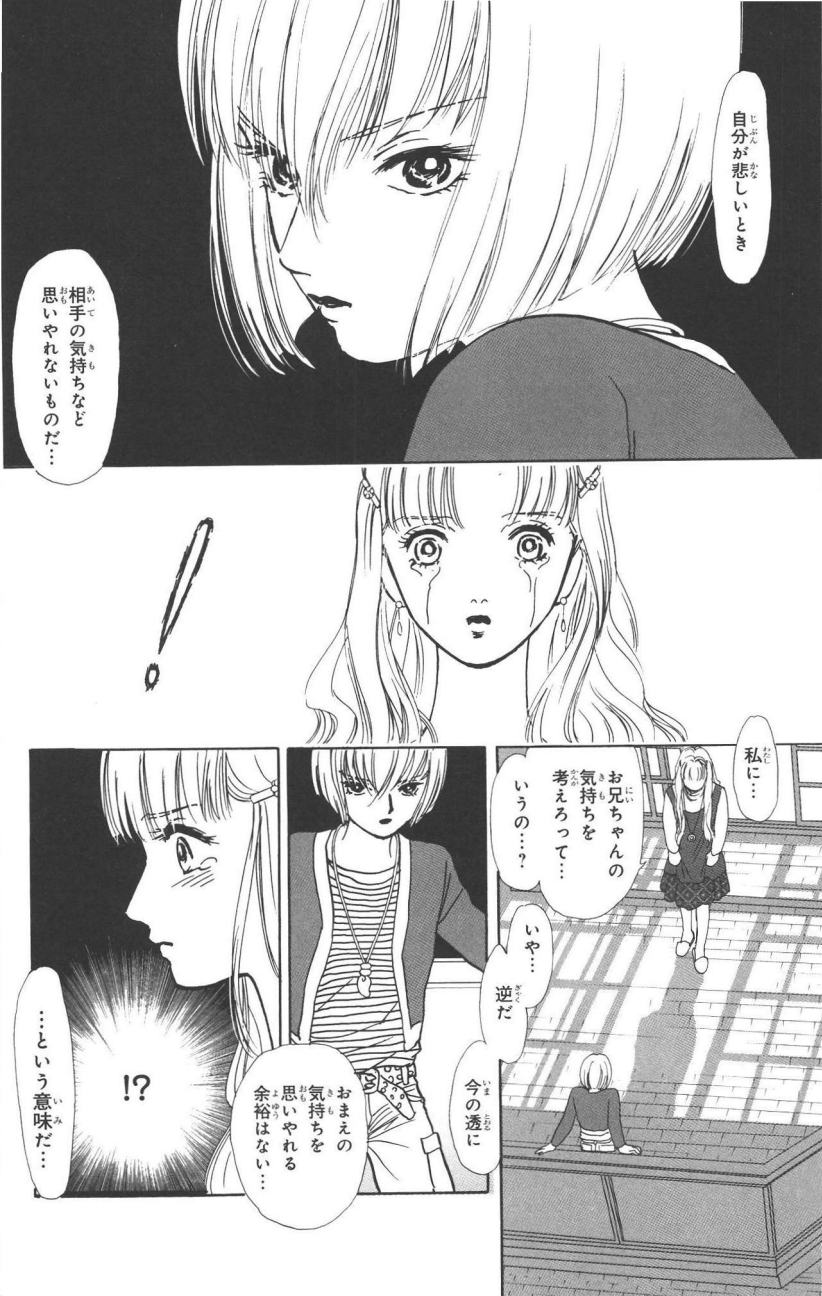
自分でもよく
わからない

なんでこう
いちいち


親父にイライラすんのか…
お兄ちゃんのほうがよっぽど子供ね
ああ…
まったくだよ…
夕姫…大丈夫なの？
具合悪いの？
ううん…そんなんじゃないの
…ちょっと
食欲がないだけ…

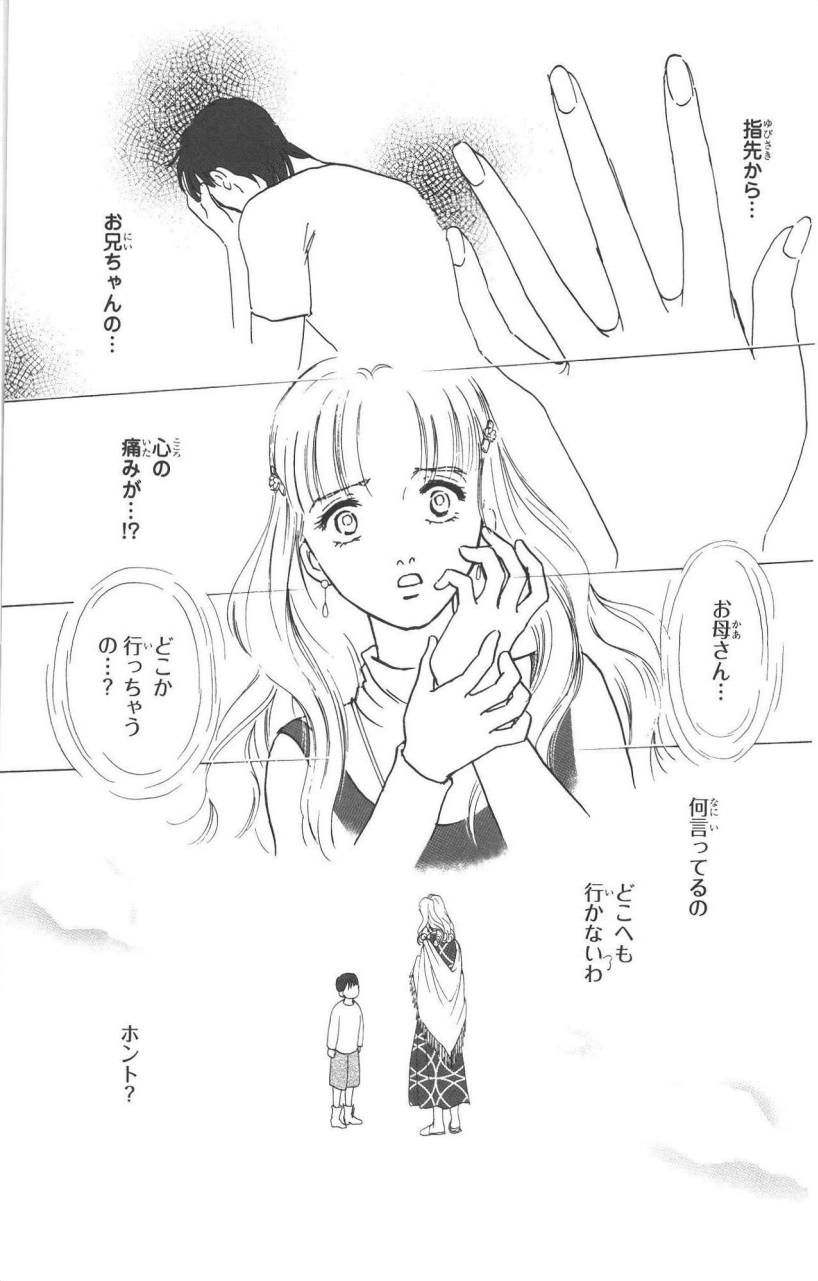

夕姫…どうかしたか？
うん…なんだかね…
これは勘だけど…たぶん…
透さんとケンカしたのよ…！
早とちりすんな！
……ないつきあいしてねーよ
いずれ俺より好きな相手が…
…なんでよ…!!
どうしてそう思うのよ!!
何も伝わってなかったの…
…もう10年近く…
不安だった…
ホントはあたし…ずっと不安だった…
お兄ちゃんにとってあたしはいつまでたっても小学生のままなのかもって…


…本当にそうだった……
…ってことね……
あ…
蕾ちゃま…


自分が悲しいとき
相手の気持ちなど
思いやれないものだ…
私に…
お兄ちゃんの
気持ちを
考えろって…
いうの…？
いや…
逆だ
今の透に
おまえの
気持ちを
思いやれる
余裕はない…
!?
…という意味だ…


……
…蕾(つぼみ)…
ちゃま…?
ポン
ポン
え…!?
ぬりぬり
…蕾(つぼみ)ちゃま?


これは
透が手塩にかけた爪紅だ
……
ほんのりと…
花びらみたいに…
チリ
チリ
!?
え…?
何!?


指先から…
お兄ちゃんの…
心の痛みが…!?
お母さん…
どこか行っちゃうの…?
何言ってるの
どこへも行かないわ
ホント?


ホントよ
あなたを置いて行くわけないでしょ？
ホントだね
ウソつきッ!!
透…お母さんにはお母さんの人生があるんだよ
ウソつきッ
あいつもあんたもウソつきだッ

知っていたんなら
ひきとめりゃあ
いいじゃねえかよ

透の

心の奥底はそこで止まってるんだ

ひきとめてくれなかった父も

置き去りにした母も

……

ああ…

想い出した…

出会ったころの

お兄ちゃん…


悪ぶってるくせに
優しくて…
でも…
その優しさのむこうに
…そう…
…なんだか…
夕姫…
――俺は…
おまえがいなかったら
ただのクズだ……

…お兄ちゃん…

消えて
しまいそう…

あのころは子供で
よくわからなかったけど…

…もしかすると
あれが…

「愛しい」…

てこと…？


夕姫…
ホウセンカの花言葉を
知っているか？
…たしか…
「わたしに触れないで」
…そう
だがもうひとつある…
「心を開く」
想いをため込んで弾ける種には
毒が有るが
使いかたしだいでは
それも薬だ…


おまえは何粒
受けとめられる…？
……
蕾ちゃま…


ヒヒ
お兄ちゃーん
夕姫？


なぁにー？
二日酔いみたいなカオして
おじいちゃんセンセは？
あ…い…今カマド小屋…
あ…なんだそうなの
じゃああとで持ってってあげなきゃ
お兄ちゃん　どーする？
今食べる？　アイス
なんだコイツまるで何事もなかったみたいに
俺はなんか夕べぐるぐるしてヘコみまくってたっつーのに
えっ
アイス？
まっいっか…
食う
食う
アイスボックスにドライアイス
完全防備よ♡
夕姫がなんともないんだったら
ハイッ
あ…
おまえ…そのツメ…
あっ気がついた？
どーお？
うん…いーんじゃねえ？
俺はこないだのよりこっちのがスキかも
わーい♡


アイス…
おかわり
あるから…
おっ
さんきゅー
……
ジィー
夕姫…
ん？
…あの…さ…
き…昨日は
ゴメンな
あら！ 謝るんなら
あたしじゃなくて
お父さんにじゃない？
あんな態度
よくないよ
…悪かったな！
すっごく
ダンディーで
紳士的でぇ〜
きっと女子社員に
モテモテよね——♡
やめろよ
なんでよ
本当のこと
じゃん
…ああ…
ステキな
お父さんじゃ
ない
お兄ちゃん
とは
似てないよね
くすっ
パク


オヤジの話はやめろッ
胸クソ悪くなるッ
……
……
悪ィ……
ゴメン…
でかい声出して…
どうしてそんなにお父さんを拒むの？
お母さんをひきとめてくれなかったから…？


…な…っ
なんでおまえがそんなこと知ってる…
オヤジから聞いたのか？
神田が話したのか？
いなくなった人のことなんか
そんなことどうだっていいじゃない
忘れちゃいなよ
うるせ――っ俺はアイツのことなんかとっくに…っ
嘘よっ
縛られてるじゃないッ!!
やめろッ


あたしは…っ
どこにも
行かない…
ずっと
お兄ちゃんの
傍にいる…！
ピチチ
ロック
…何があっても…
…絶対に…
……どこにも
行かないよ……
ゆ…
解放されて
ほしいの
夕姫…
そんな
苦しみから…


だってね…
お兄ちゃんがいなかったらあたしなんて…
…覚えてない？
お兄ちゃんだっていろんなことしてくれたじゃない
いつも支えてくれたじゃない
夕姫を置き去りになんて…
…しないよね…
指先から伝わる
震える…心が……


…ねぇ…
一粒残らず
つかまえさせてよ…
俺…
…夕姫…
ワ――――
ザザザザ


Pi
Pi
Pi
Pi
Pi
Pi
Pi
Pi
……
Pi
Pi
おい
透
出たほうがいい！
おまえの父上の乗った飛行機が…！
！


国際線
リオデジャネイロ行き
○○○便
離陸2分後に
左翼に異常を
検知……
管制官の指示に
従って大きく旋回し
同空港に緊急着陸
着陸後
走行中に
機体は大きく傾き
左翼をこする
格好で……
ただいま
次々と乗客を
避難させて
います
ガラ
バタ
バタ

透さん

神田さん

オヤジは…

今…
手術中で…

手術中

手術ッ!?

…なお
乗客乗員は
全員無事
ですが…

一部

骨折や
打撲などの
ケガをした人や
めまいや
吐き気…

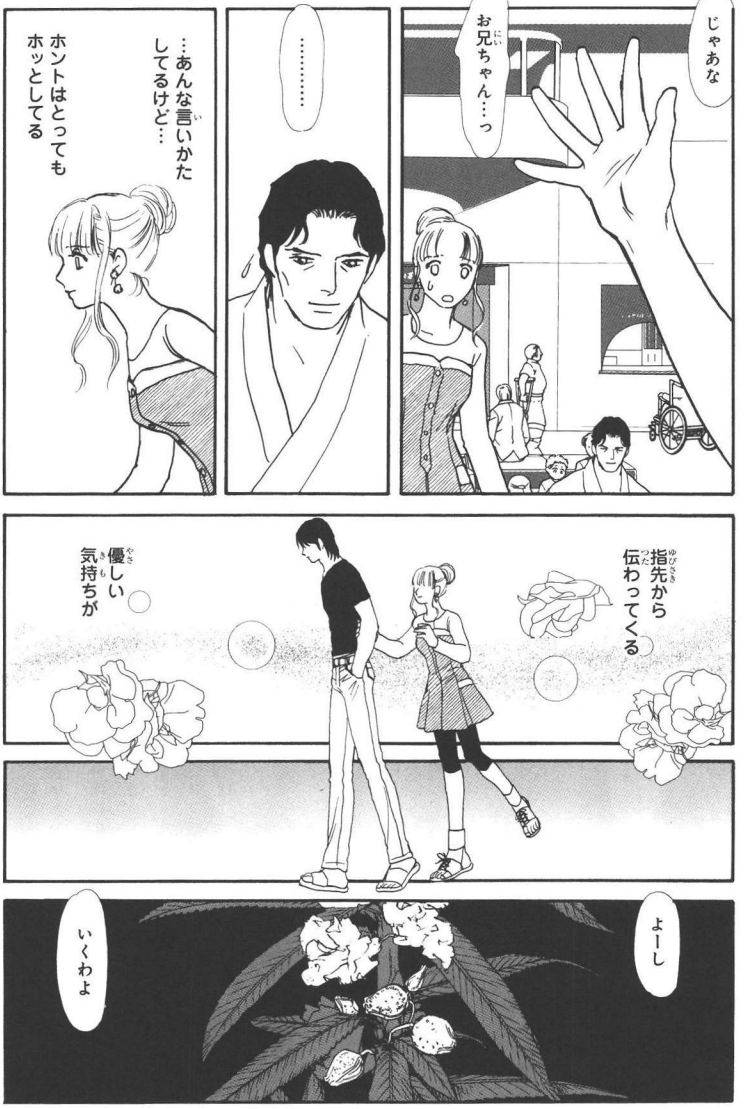
通路の先の
お客さんが
足元に置いた
手荷物が衝撃で
飛んできて

じゃあ あの
骨折した客って
オヤジのこと!?

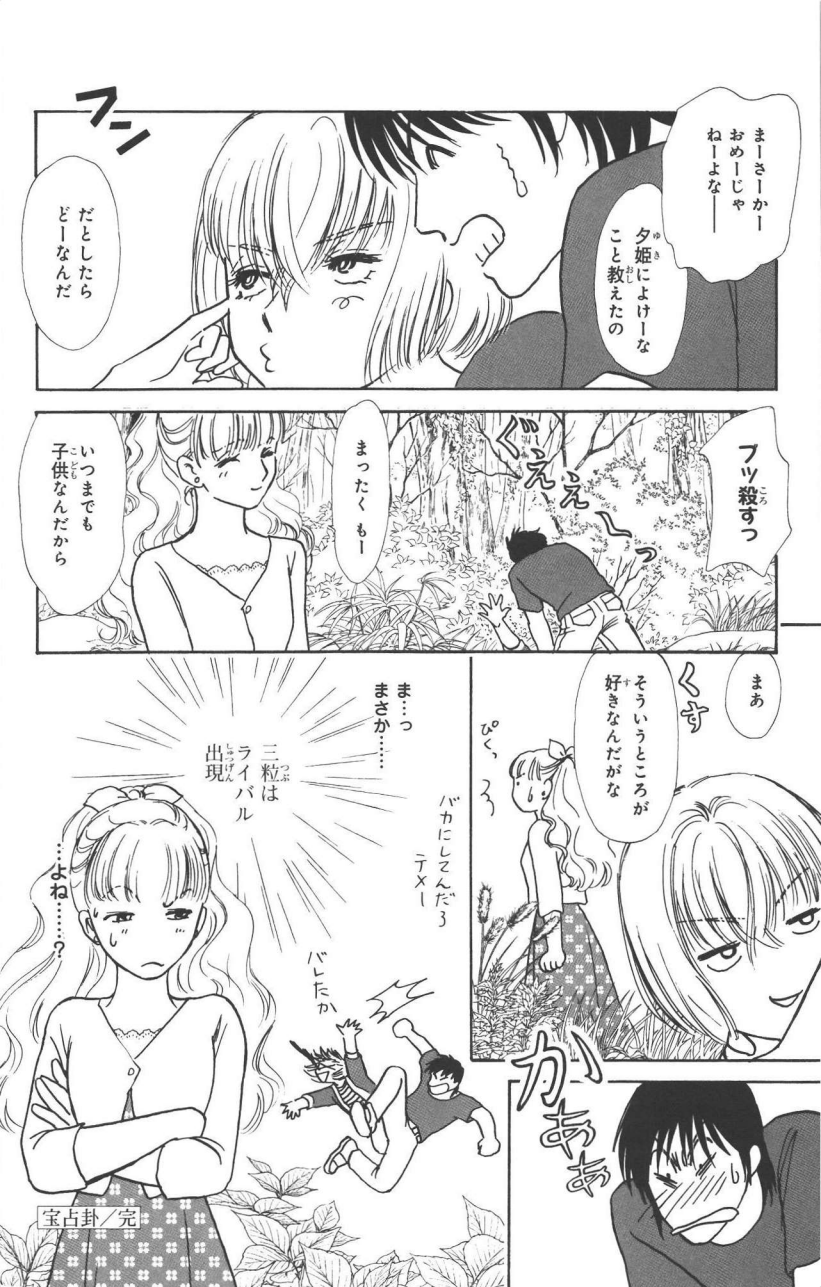
どこの骨折ったんだ!?


小骨を二本
……
だから日程は再調整を！
まずは現地の資料は既にまとまってるって
業務に確認を
病院でも仕事してやがる…
でも…よかったね…
大ケガじゃなくて


…まあ…な
おまえが来てくれるとは思わなかったよ
……
たいしたことねーみてーだからもう帰るわ
…お兄ちゃんたら…っ
透…
今度…私に時間ができたら夕姫さんも一緒に
食事でもしよう
……
そんなことより
はよ治せよ
ちっ


じゃあな
お兄ちゃん…っ
……
…あんな言いかたしてるけど…
ホントはとってもホッとしてる
指先から伝わってくる
優しい気持ちが
よーし
いくわよ

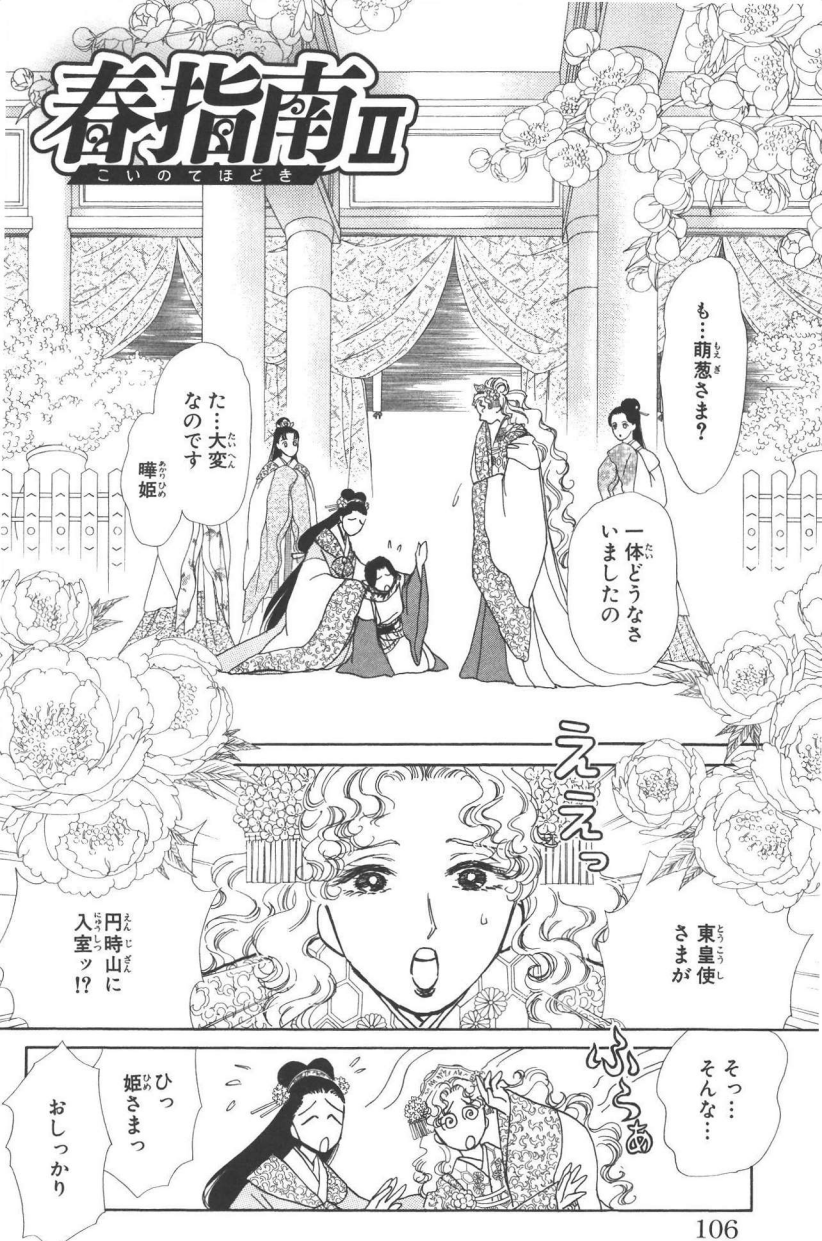
そー…
さっ…
三粒(つぶ)…!?
ポンッ
えいっ
ぱしっ
……
ふーっ
なあ 薗(ぞの)
ちょっと
聞(き)きてーこと
あんだけどォ


まーさーかー
おめーじゃ
ねーよなー
夕姫によけーな
こと教えたの
フン
だとしたら
どーなんだ
フツ殺すっ
ぐえええっ
まったくもー
いつまでも
子供なんだから
まぁ
くすっ
そういうところが
好きなんだがな
ぴくっ
バカにしてんだろ
テメー
ま…っ
まさか……
三粒は
ライバル
出現
…よね……？
バレたか
かーおお
宝占卦／完


コチラは
天界の花園
華恭苑
きらめきの中で
芳しい花々が
咲き乱れ
妙なる楽を
奏で歌う仙女たちが
空を舞う
あでやかで
おだやかな……
ドタドタバタ
…おだやかな…
曄姫ッ
一大事ですわっ
あっ
ガっ
ズザザザ
きゃあっ

春指南II

こいのてほどき




カサ
ちがうぞ 透
それは ドクゼリだ
根を確認しろと言ったではないか
な…何だよお前
見てたのか？
ボーッとしおって
ちょっと待てそりゃお前のほうだろ？
何だと？
ずーっと何か考え込んでやがったから気になっちゃって
何だ
人のせいにするな
なあ…アレか 東雲の言ってた
何つったっけ萌葱ちゃん？
あいつの姪っこかいう


単刀直入に訊こう
君は萌葱をどう思う？
愉快な姫君だな
賢くてもお前のようにすましてなくていい
いつもなんだか楽しそうだしな
ああ
嫌いじゃないな
そう
それは好感を抱いているのだと思ってもいいね
そう…では
萌葱と
結婚しなさい
花の女たちのような変なしながなくて
一緒にいて気が楽だ
……
ヴァキ
いっぺん死ねッ


あれからじゃん…
何？お前
けっこう気になってんの？
あのコ
ちがうわっ
気になるのは彼女じゃない
あのときの東雲が
いつになくあらたまって


やけに真顔で
いやに躊躇なく
一体どーゆー
花将さま～～～
あんな笑えない冗談を言うから
ん？
ああ～～～ん花将さまぁ～ん
やはりこちらでしたか
大変なのです
おじさまが

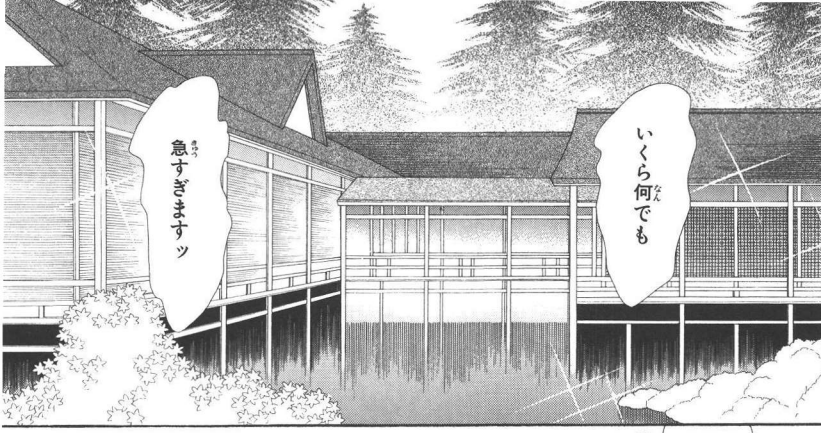

円時山に？
なんだ そのエンジザンにニューシツって
円時山とは天界の最も高い山 神扇山の頂上より高くにあって 天神界の神威に則って聖性を磨く修業の山です
それってその山一番高くないじゃん
一番高い山より高いってナニよ
時空がちがうのです
円時山に入室したら おそらく百年は戻ってこられません
百年!?
…つまり…
本格的に緑修天司になるための修業に行くってことか
あぁ～くん 花将さまぁ～
私の嫁入りはドーなってしまうのォ～っ
えっ あれ？
曄…お前
たしか橙士にのりかえたんじゃなかったのか？


とオ〜んでもないですわぁっ
ブン
ブン
あの薬の効果は一ヶ月しかもたないという事が判明
トホホ
いーかげんにしなさい
それが今のそなたの実力だっ


そういやアイツ…前に緑修天司ってムリしてヨメさんもらわなくていいから
気が楽だっ…て


?!


そんなこと言ったのか？アイツっ
ああ〜〜〜
花将さまお願いです
おじさまを止めてくださいっ
…いや…しかし円時山入室は緑修天司になる以上必須課目だからな
だってだって…
曄姫ッ


いくら何でも
急すぎますッ


そんなことは
ないだろう
ずいぶん前から
私は言っていたよ
いずれ
緑修天司に
なるとね


だからこそ君は
次の東皇使の座を
目指したのだろ？
それはそうですが
今の私では
まだとても…


まだファン心理と
恋のちがいもわかって
いませんし
もっとおじさまに
教えていただかなくては
ならないことが
たくさんたくさん残っています


そうだね
それは少々
気がかりだが


でも私が就任したときも
まだ幼くて何も知らない
ころだったのだよ

君のことは教授たちと蕾に頼んでおくよ

蕾はああ見えて

がさつでそこつで

暴れん坊で単細胞で朴念仁だけど

悪かったな

がさつでそこつで暴れん坊で…

あと何だったっけ

花将さまっ？

単細胞で朴念仁…

きさ～ん

来てくださったんですね花将さまっ

そういうことだったのか…

何だね

とっぴな提案？

こないだのきさまのとっぴな提案だ

…萌葱…君はさがっていておくれ

ちょっと

蕾と2人で話したいことがある

…では…

またのちほど…


これは一体
どーゆーことなんだッ
なぜこんなに急なんだ
理由は何だ
どーって…
見たとおり
聞いたとおりだよ
瞭道博師の
目覚めの徴候があるらしいのだよ
!!
瞭道博師といえば
天地における最高の
賢者だけれど
千年に一度しか
目覚めないお方
なのは知っているね
どうせ修業で
円時山に入室するなら
最高の賢者に
教えを乞いたい
…そう思うのは
当然だろ?
……
…正直まだとても
気がかりは残っている
君のことも
萌葱のことも…
ちょっと待て

お前が最高の賢者に教えを乞いたいのはわかった

それはいいだろう

だがなぜそれでオレに萌葱どのと結婚しろなんだ

逃げているからだよ

君が…

はあ〜〜っ!?

逃げてるのはお前だろ

睫からいっも

…たぶん君は

このままでは

恋はできない

…何だ それは

聞きずてならんな

後選びをこうまで避けるのはなぜだね?

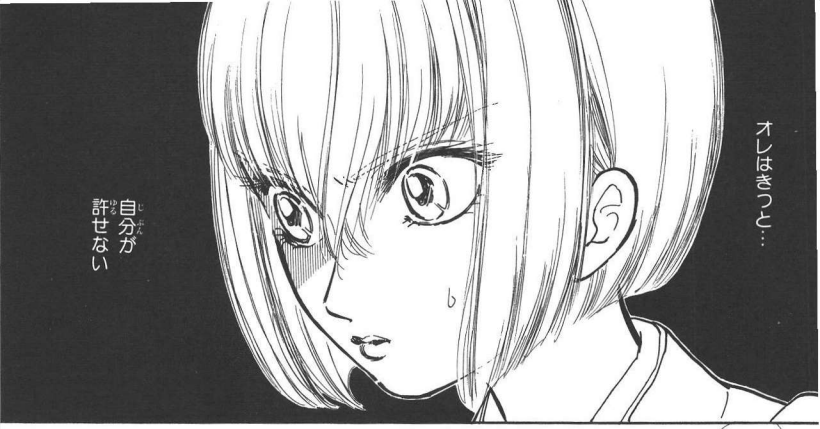
パタリ

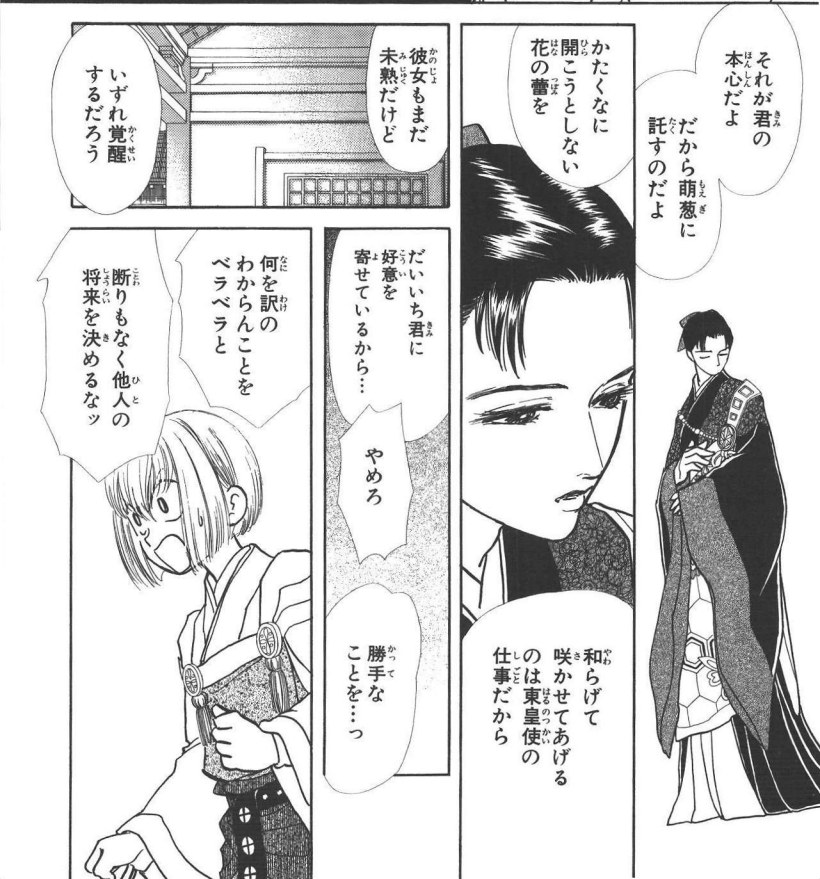
そりゃオクテで照れ屋なのもあるだろう

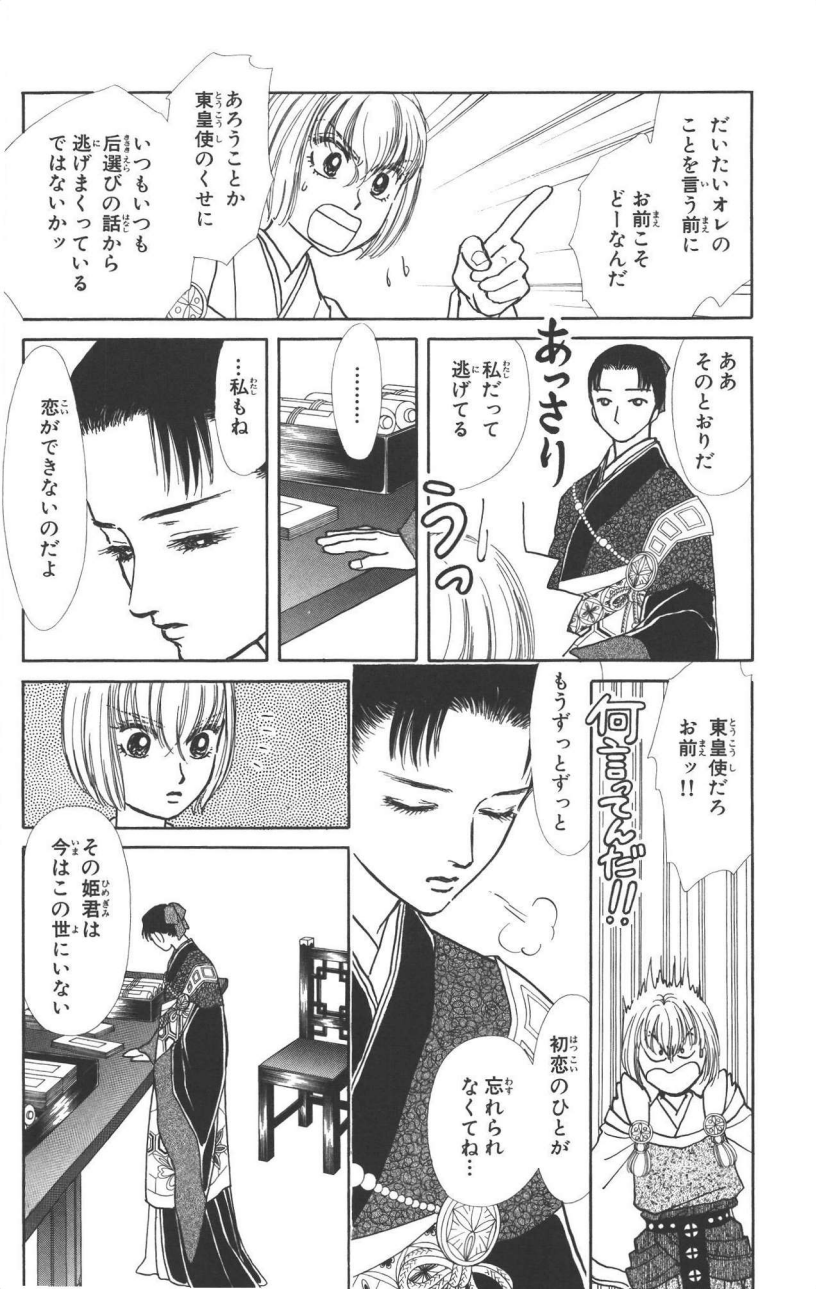
存外女性に真面目だということも

でもそれ以上に君は許せないんだ

君の心の奥の
「最も特別なひと」
という場所に
第九皇子以外の
誰かを入れることを
……
君自身
そのことを
自覚しては
いないかも
しれないがね
恋する心を
封印している
どこかの姫君に
夢中になって
万が一……
たとえ一瞬でも
あのお方の存在が自分の
中で薄れる瞬間があったら


オレはきっと…
自分が
許せない


それが君の
本心だよ
だから萌葱に
託すのだよ
かたくなに
開こうとしない
花の蕾を
和らげて
咲かせてあげる
のは東皇使の
仕事だから
勝手な
ことを…っ
だいいち君に
好意を
寄せているから…
やめろ
何を訳の
わからんことを
ベラベラと
断りもなく他人の
将来を決めるなッ
彼女もまだ
未熟だけど
いずれ覚醒
するだろう


だいたいオレのことを言う前にお前こそどーなんだ
あろうことか東皇使のくせに后選びの話から逃げまくっているではないかッ
ああそのとおりだ
私だって逃げてる
あっさり
うっ
……
…私もね
恋ができないのだよ
東皇使だろお前ッ!!
何言ってんだ!!
もうずっとずっと
初恋のひとが忘れられなくてね…
その姫君は今はこの世にいない


…し…
…死んだのか…？
……
くす
そういう訳でも
ないから始末に
困っているのだよ
その方はとても
高貴で可憐な
花の姫君で
ひと目で
好きになった
胸の高鳴りを
おさえて
震える声で
話しかけたら
殴られたよ
え!?
そ……
それって……
…東雲…
…あの…
その姫君って…
君だよ
スパ


……
カタッ
そこまで狼狽しなくても……
カタッ
カシャン
君であって
君ではないんだ
でも…
わかっているのだよ
あれは君ではない
私が焦がれているのはあのときの
花の皇女……
幻の花だ…
……

君は私と同じ姿の
私のかたわれに

私は君であって
君でないものに

がんじがらめに
なっている

私は

これから先も

幻の花を
心の中から
消せない

なっ…何なんだ

なぜ
今
そんな話を

どういう
つもりなんだっ

パニック

最後の

くす

いじわるって
ところかな

ふざけるなッ

かあっ

がっ


ぐっ
蕾
これが…
人を恋うる
気持ちだ…


ドクン
…何…!?
流れ込んで来る…!?
さまざまな彩りの
情動の波が…


切なさに痛む胸
甘い期待
…あいたい…
あいたい…
苦しいほどの熱さ
切実な祈り
くすぐったいような
昂揚感
触れたい……
探る想い
……


…何のマネだ
これも東皇使の能力だよ
花季の短い幼い花には
こうやって「恋」を教えることもある
ナニっ
……
……
サウッ


逃げている
からだよ
君が
君は許せ
ないんだ…
あれは
君であって
君ではない…
あの…
花将
さま…
……
…あの…
おじさまと
ケンカに
なって
しまったの
でしょうか
…すみません…
私が止めてくれなんて
お願いしたから…
……
いや…
いや それで
思い悩んでいた
訳ではない
あ
そうですか


この世は
あまりにも
たとえ力が
あっても
智恵が
あっても
そんな…
そんなこと
何を
おっしゃい
ますか
ままならない
ことが多すぎて
どうにも
できない
……
…元気を出して
くださいませ…
花将さまの
お悩みは
わかりませんが
きっといつか
いいことも
ありますわ
☆
ぷっ
えっ
あ…私何か
おかしなことを
申しましたか
いや……
きっといつか
いいことも…か…
…そうだな…
ええ！
そうです
とも!!


それも
そうか！
はい！
早くいつもの
お元気な花将さまに
戻ってくださいませ
……
ありがとう
萌葱どの
ドッキン
あ…
な…
何だか
これは…
何だって!?
はい…ですから
瞭道博師は徴候が
あってから覚醒
するまで3年は
かかるのでございます
さ…っ
3年ッ!?
もう仕度を
整えてしまったよっ

つまり
あと3年!!

曄姫さま!!
ここはイッパツ

おい…いっそ
彼女にもあの技
使って教えてやれ

おじさま?

おじさま

……

今度こそ
ファン心理と
恋の差異が
わかった気が
いたしますっ

おじさま
ご教授をっ

ファイッ

とっとと
既成事実を

ああ〜ん
がんばりますわぁ〜ん

バタ バタ バタ

おじさま
おじさま

新しいレポートを
作成いたしました

どうか
ご採点をっ


前ページまでの「春指南Ⅱ」は
2005年の2月号に掲載されたものです。
そして、この次の「春指南Ⅲ」は
2009年 10月号 掲載でした。
諸般の都合によりまして この巻に
続けて収録されておりますが
この2作品の間には
おおそ 4年半のブランクが
ございます。
どうか、ご了承の上
お読み進め下さいませ


春指南Ⅲ
こいのてほどき


そういえば
最近 東雲の姿 見かけないけど
そろそろ本腰入れて 円時山行きの準備に かかっているらしいからな
えっ
エンジザンて あの…修業の 山ごもりとかいう
ああ
いっぺん 行っちゃったら 百年くらい戻らないっつー…
ああ…

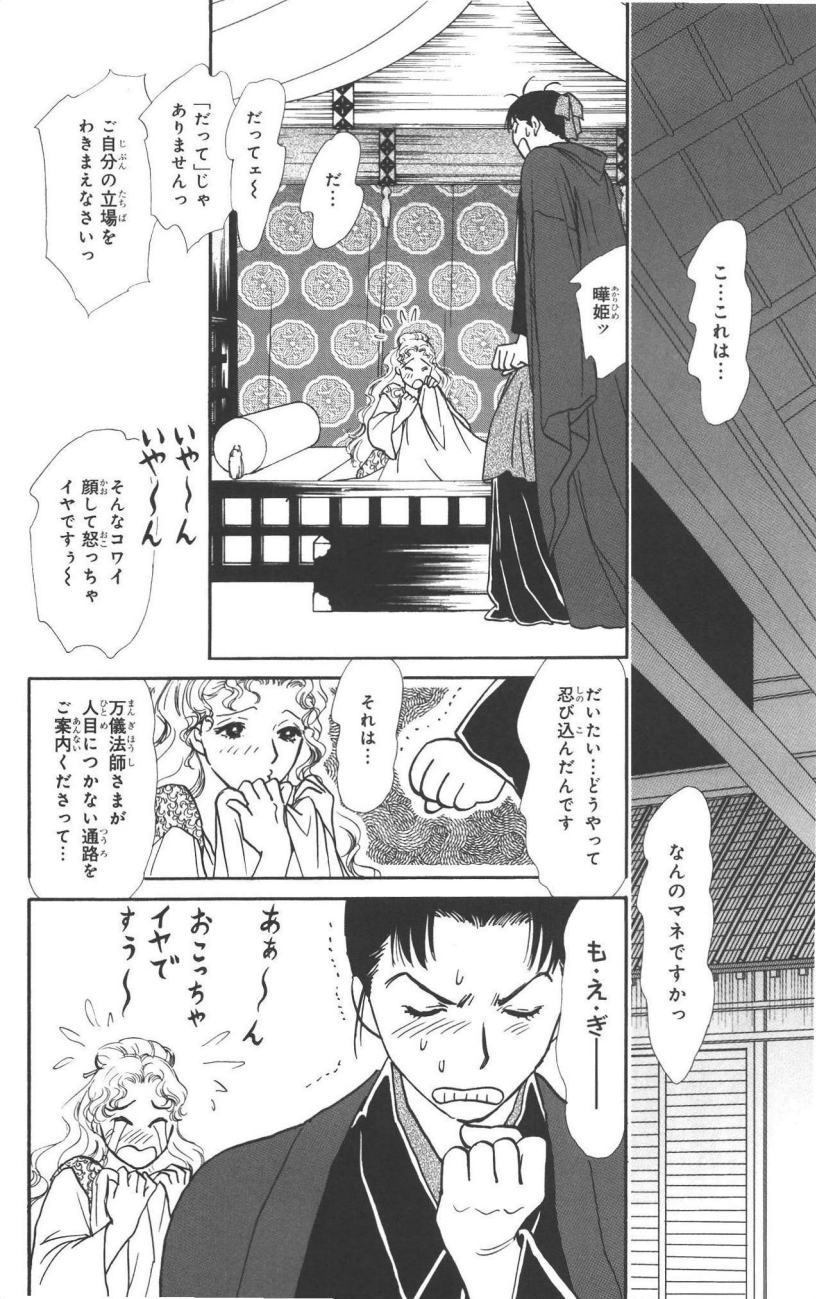

……
…そんな…
…雪…
東雲に伝えてくんねーか
行っちゃう前にいっぺんカオ見せにこいって…
おまえらにとっては百年後ったって再会できんだろけど
俺ら人間にとっちゃ…
もう会えないってことだから……
わかった
伝える
…そっか…以前そんな話が出たときにゃ——結局あと3年も後じゃんかってことになったけどさ
もう…ボチボチ3年経つもんな…


そうだ…
もう3年…
経つのか…
ねえ、ホントに東雲さんにもう会えなくなっちゃうの？
しんみりすんなっ
このままでは君には…
恋はできない…
思ってもみなかった真実を
そして…
私も…
つきつけられて…
ああああ～～～


万儀法師さまぁ〜ん
わらわはいったい
どうしたらいいの
かしらぁ〜〜ん
おう
おう
曄姫
もう間に合い
ませんわぁ〜〜〜
そうですわね
ご出立までは
あと一か月以上は
あるものの
ほとんどの日数は
潔斎のため
誰も近づけなく
なりますものね
そうなると…
実質残されて
いるのは…
ほんの数日…
あうぅ〜〜〜
万儀法師
さまぁ〜
おかわい
そうな
姫さま…
めそ
めそ
おいたわしや
あ——っ
うっとおしいーっ
いっそのこと
てっとり早く
押し倒しちゃあ
どうですか
寝込みを
襲うとか！


まーっ
なんて
はしたない
ことをっ
デリカシーの
カケラも
ない
曙橙将軍(しょとうしょうぐん)ッ!!
フン
…でも一理(いちり)ある
……とも
言(い)えます
わね……!
だって残(のこ)された
時間(じかん)はわずか!
きれいごと
言(い)っちゃいられ
ませんわ
まっ
万儀法師(まんぎほうし)
さまっ!?
わーっ


何事だっ
バタバタ
東皇使さまのご寝所からだっ
何事かございましたかっ
あ…
いや…
…その…
スミマセン…
ちょ…っ
ちょっと悪夢にうなされまして…
…ああ…
左様でございましたか…
お騒がせしてスミマセンでした
いえ…何事もないのでしたら…
やはり ご出立の日が近づいて神経質になっておられるのだな
あの冷静沈着な東皇使さまでもやはり…
む〜ん


こ…これは…
曄姫ッ
だ…
だってェ～
「だって」じゃありませんっ
ご自分の立場をわきまえなさいっ
いや～ん
いや～ん
そんなコワイ顔して怒っちゃイヤですぅ～
なんのマネですかっ
だいたい…どうやって忍び込んだんです
それは…
万儀法師さまが人目につかない通路をご案内くださって…
も・え・ぎ――
あぁ～ん
おこっちゃイヤですぅ～


だいたい
東皇使さまが
お悪いん
ですわっ
しくしく
しくしく
……
睡は贅沢を
申し上げては
おりませんわぁ〜
百人のうちの
一人でもいいと
申し上げて
いるのにぃ〜〜〜
なぜ　いつもいつも
お逃げになるばかり
なのですかぁ〜〜〜っ
うぅ
そ……
それは…
あぁ
そういえば…
たしか以前　すでに
想うお方がいるとか
…いったい　どこの
誰なのですぅ——
その方のせい？
きぃ〜〜っ
……
ともかく…
今宵はそこで
お眠みなさい
東皇使さま
どちらへ…？
萌葱を連れて
きます
夜が明けたら
萌葱とともにここを
立ち去りなさい


私は別室で眠みます
東皇使さまぁ〜〜〜
…ますます気になってきてしまいましたわん
何がです？
いくら訊いてもお答えくださらないのなら
親しい方に訊くよりほかありません
まったく
…かたくなですこと
東皇使さまの想い人…
…ああ…
何っ？
東雲の!?
なぜオレに聞くっ!?
だってェ〜
ご本人からは教えていただけないんですものォ


しっ
知らんっ
はぁ〜
やっぱり…
…ですわね…
しかた
ありませんわ
……
他をあたり
ましょう
失礼いたし
ました
花将さま
ペコリ
あ…
いや…
ん？
他を
あたる…？
ピィー
えっ
東雲の
想い人？


はい
……
い…いや…
俺は…
ごくごくごく
夕姫は？
そなたはどお？
えっ
いやあ
ん――…
あはは…
えっ
東皇使が好いてんのぁ花将だろ
よっ
来尾ッ!?
来尾ちゃん!?
キャ――
怪魔ッ
なっ
なんと…!?
なんでおまえがこんなトコにっ
つか なんでおまえがそんなこと…
誰が見たって丸わかりじゃねーか あのご執心ぶりは
東皇使さまの想い人は花将さま…!?


そっ
それはつまり
叔父さまは あの曙橙将軍と
同類ということなのですか!?
じょおしょお 同類
不本意…
…なんかソレ東雲がちょいかわいそーかも…
うん
ガン
そんな…
ガン
そんなぁ…
ガン
誰と同類かは知らねーけどそんなビックリするよーなことか?
ああ… 来尾ちゃんも薫さん命だもんね…
何か…それと一緒にすんのもそれはそれで気の毒くさくねえ?
盲点でしたわ ええ まったくもって
ふら
ふら
ふら
けど…夕姫おまえも気づいてたのか?
…なんとなく…
だーかーら誰が見たって丸わかりなんだって
いえ!!
ワタクシ全然でした
あんた東皇侠めざしてんだろ!

でっ では 皆さま
皆さまがそう判断した
ポイントを教えては
くださいませんか!?
ポイントォ――!?
いやっ
ポイントって
言われても
えーと…
なんだろ
目線?
いや
態度
向かデンパ
とばしてるカンジ…
バーカ
見てりゃ
わかんだろ
理屈じゃ
ねーんだよっ
ちょっ…ちょっと
待ってください
もすこし
わかり
やすく
最初から
だーかーらー
えーと
まずは
…目線…?
具体的に
じーやー…
ん?
あれは…
萌葱!!
また勝手に天界を
抜け出したのかねっ
護衛も
つけず
あっ
叔父さまっ
ぎょぎょ
しのめっ
おっ
ちょーどいい
本人に聞いてみろ
お嬢ちゃんよ


叔父さまの想い人は
花将さまというのは
マコトのことですかっ
単刀直入
わーーーっ
もえぎてやまっ
なっ…
な…っ
何…
何を…
急に…
皆さまから
聞きました
皆さま!?
……
……
しののめっ
ガクガク
も…萌葱ちゃま
ちょっと
あっちで
話そうか…
？
うたれ弱いな
優等生は


はぁ…
「誰が見ても丸わかり」…とは
己の未熟さを思い知ったよ
まー　そー　へコむな！
大丈夫!!
気づいてたのは俺たち下界モンだけだから
ポン！
ポン！
天界の連中は気づいてなかったんだからさ
俺…おまえのそーゆートコ大好き♡
それより…さ
今日は俺に会いにきてくれたんだろ？
お別れに…
どーゆー意味だね
まー　まー
…ああ…
蕾から君の言葉を伝えられてね…


…行っちゃうのか…
ホントに…
……あぁ…
お別れか…
そうだね
なりゆきとはいえ…
もし君と友達にならなかったら
学べなかったであろうことがたくさんある…
俺だってよ
おまえと出会ったからこそ…
こんな……
薬草の勉強するようになったんだよ
まだわかんねえことだらけだ
もっといろいろ聞きたかったのによォ
…なんかなぁ…
もう会えないなんてまだ実感わかねえ
君には感謝しているよ…
透
ぐしっ
ポン


はぐっ
透…
ぎゅう
忘れんなよ
俺たちのこと…
透
？
お別れに
これを…
私の杖を
削った粉だ
夕姫ちゃんはずいぶん
元気になった…
もし…この先
何かあったら
これを使いなさい
…東雲…
もうたぶん
君の調合に任せても
大丈夫だとは思うけれど…
友達
だった
こと…
絶対！


ああ
忘れないよ…
……
ポン
ポン
じゃ
夕姫ちゃん
ホントにホントにお別れなの？
うっ
…そんなに泣かないでおくれ
うっ
もう会えないの？
実のところ 二度と会えないとは私は思っていないんだよ
えっ
フツーの樹仙なら百年はかかる修業
ヒソ
私ならたぶん20年くらいで卒業できる…
…そう思っているんだ


透には内緒だけどね…
元気で…
…透を支えてあげておくれ
…うん…
オイラには？
キミとはいずれ又あえるだろう
まあ特別あいたい訳でもないが…
さあ…じゃあもう天界に戻ろう
萌葱…君も…
はい…
あ…っ
あら？
曄姫は？
曄姫ッ!?
いたの？
あ
そういえば…

どーゆーことだッ


そ…それが…夕べ東皇使さまのご寝所に…
橙士ッ!!
そ…そんな…いくら某でも姫君の床の中まで確認するなどは…
あ…いえ…
戻られるなり泣きながら寝床にこもられて…


たしか…東雲は今日透のところに行く…と言っていたな
ふーの


ピチチ
ミィー


あれは……
お〜い
お〜い


曄が
消えた!?
あのバカ!!
委細あい
わかった
あとはオレが
曄の花気を
たどってみる
おまえたちには
世話をかけたな
東雲…おまえは
潔斎の準備が
あるだろう
もう行け
し…
しかし…
行け!!
じゃ…じゃあ
透
はぐっ
夕姫
ちゃん
はぐっ
いつまでも
仲良く元気で
おまえもがんばって
修業しろよーっ
……
行っちゃった…


寂しーな
ぱぁーっ
…なんか心にポッカリ
穴が空いたみてーだ
…お兄ちゃん…
あ…あれ？
薔は？
…あ…
花将なら
あの花の姫
捜しに
行ったぞ
樹仙の姫も
追っかけてった
ジィー
ふら
ふら
東皇使が
好いてんのぁ
バタン
ゴロ
ゴロ
花将…
ナニ…？
いったい
どーゆーこと？
ぼふっ
ココハドコ？
ワタシハナニ？


ゴオオオオオ
……


あなたは
ついてこなくても
よかったのに
万儀法師どの
いえ…
でも…
私にも責任がありますから…
ピタリ
……
花将さま…？
だめだ…
オレの嗅覚では
ここまでで…
ボロッ
よろよろ


もーしもし
そこの
お嬢さん
……
ふち
ふち
そこの美しい
ご婦人♡
ハ
ハ
ハ
あ…こ…
ここは…
なんとも
うちひしがれて
さまよって…
察するに恋の
お悩みでしょう？
なっ
なぜ
それを
ビンゴ♡
思いどおりに
掴まらぬ恋を
あなたのモノにする
お手伝いは
いりませんかぁ？
えっ
そんなこと
できるの？
モチロン♡


あなたはどなた？
わらわの望みを叶えて
くださるというの？
ええ
ええ
そうです
とも♡
まず　この宝石を
じっとご覧ください
意識を集中すると
その奥のほうにあなたの
愛する人の姿が
見えるはず…
あ…あらまあ
本当ですわぁくん
ああ…東皇使さまぁく
そうしたら
その姿をしっかり
見つめながら
次の呪文を
となえてください
エル…エゼル
…ギル…ギヌ
エ…エル…
エゼル…
ギル…
ギヌ…？
え…？
え…？
カッ
あ…？

ズ
ゆおおおお
ぎゃあああああ
フフン…
キラーン


何!?
なんですの!?
出して——ッ
ドンドン
出してっ
出してと言われて
出すわきゃないでしょ
こ〜んな大物
初めてなんだから
ひや
ひや
キャーキャー
ひや
どーみても天界ものの
花気をプンプンさせて
一人歩きしてるなんて
うかつが
すぎる
自分を
お恨み
あーしっ
はっはっはっ
出してーっ
お願いーっ
もがけ
もがけ
ひーっ
虜が苦しむほど
輝きが増すのさ

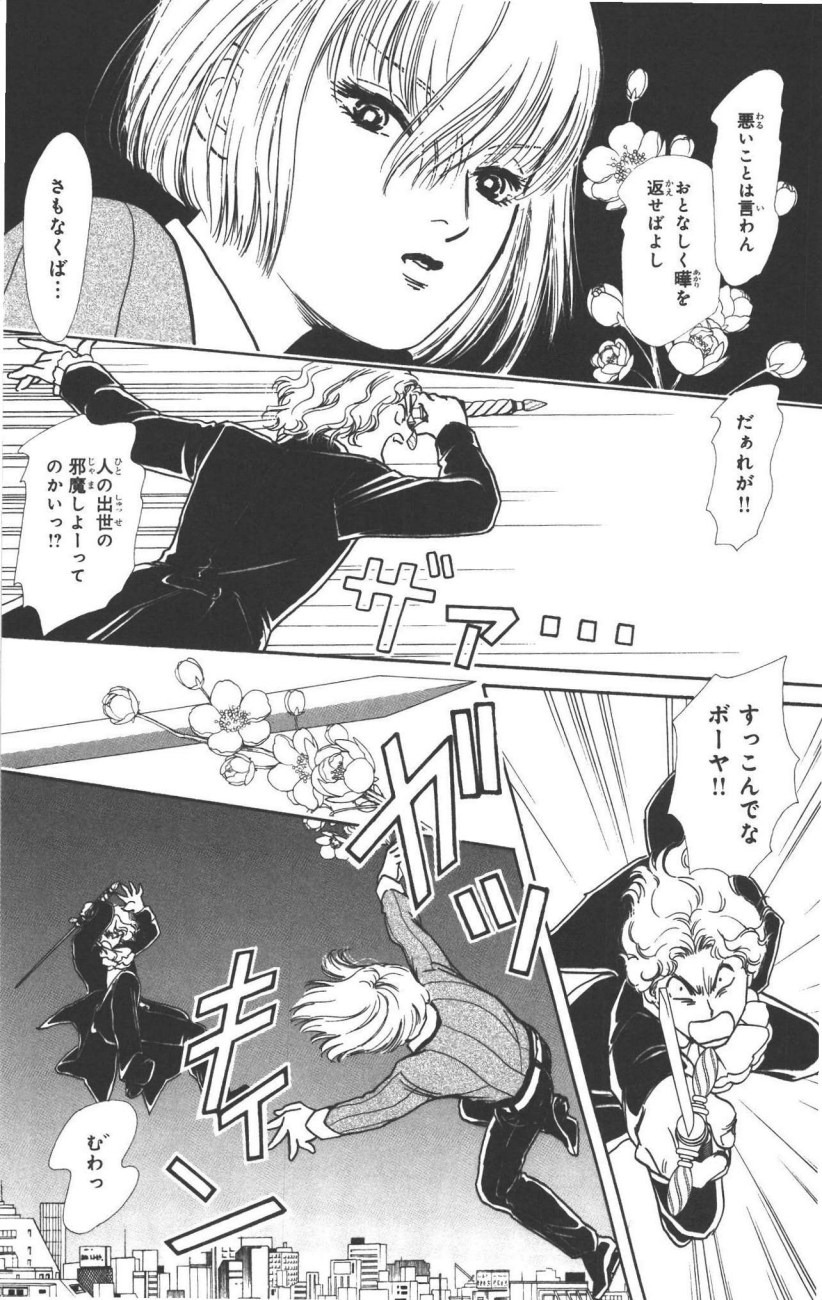

キャ——
キャ——
くっ
くっ
これほどの獲物…
献上する相手しだいでは
一気に魂位が
あがりまくるに
違いないよ
くっ
はっはっはっ
そうしたら
もうこれ以上
舎代にでかいツラ
されなくて済む…！
は…
それ…やめて
おいたほうが
いいと思うぜ
げげっ
舎代!!
てめーっ盗み見
してやがったかっ
いやま…別に
アンタを見る
気はさらさら…


たまたま
天界の花の
香りがしたんで
見に来たら
アンタが
そんなことを
してたって
ワケよ
なあ
エゼル
悪いことは
言わないよ
やめといたほうが
いいと思うぜ
そーゆーの
なんせ ホラ
「天界の花」っ
つったら あの
怖いボーヤが…
うるさい！
そんなこと言って
ビビらせて
俺様の邪魔を
しよーとしたって…
無駄だっ
バタッ
あばよっ
おまえ…
…悪魔族
…か……
こいつはッ


待てッ！
あ…この声は…
花将さま!!
花将さまぁ助けてェ～
あっ
くそっ
花将さまぁ～
おいおまえ
がっ
待てと言っているだろうるさいっ
はなせっ


こわっぱっ
しつこいと
やっちゃうよ
蕾！
これを
ゼミンウ


ヒュン
エゼル！
舎代！
舎代ではありませんか
妙香さまっ？
これはお久しぶり
みょ…妙香さま…悪魔族とお知り合いなのですか？


悪いことは言わん
おとなしく嘩を返せばよし
だぁれが!!
さもなくば…
人の出世の邪魔しよーってのかいっ!?
ザァ…
すっこんでなボーヤ!!
ガバッ
キィィン
むわっ


ゼリ
おまえ…
……
後悔するぞ…
エゼル!!
ゼリ
コアアア
バン
あっ
舎代!
待ってくれ
御大花将ッ!!


舎代？
なんのマネだ
いやっ…
まっ…まあ
ここはひとつ
俺に免じて…
そう　ことを
荒だてず…
ガーっ
舎代ッ
てめーっ
何
しゃしゃり
出てきや…
あっ
するっ


ホレ！
ポーン
シャダイー
ぐわーっ
これは…
あぁ〜
花将さまぁ〜っ
きさくくん
がしっ
ぐりん
いっ
えっ
エゼル…
おとなしく
あのお姫さんの
封印を解きな
なっ
何ィ〜〜〜っ
言うことを
お聞きな
ぐっ…
ぐぇ…
う…
うわかった…


エル…エゼル
ギヌル…
ギロン
嘩!!
花将さまっ
ああくん
怖かった
ですわあくん
礼を言うぞ
舎代
だが なぜ手を
貸してくれた?
いや…別にアンタに
協力したワケじゃないよ
こいつを助けた
かっただけさね
いちおう
仲間なんで
こいつがアンタに
かなうはず
ないからね
なっ
ぎゃあ
ぎゃあ
バカ言うなっ
俺はおまえなんかと
仲間になった覚えは
ないっ
だいたい
いいかげん
はなせっ


じゃま
失礼
舎代！
私からもお礼を言います…
あっ妙香さまとも！
何いいひとぶってんだっ
ぎゃあ
やめてくださいよ
じゃっ!!
……
ぎゃあ
嘩姫!!
心配しましたよ
ふぅしん
万儀法師さまぁ～
いったいなぜこんなことに…
だって…
うっ
うっ
嘩ショックだったんだも～～ん


まさか
まさか…
ふえ〜ん
東皇使さまの
好きなお方が
花将さま
だった
なんてェ〜
!?
どーゆー
ことだッ!?
いや——…
バレバレだった
らしいね…
ビショーに
誤解はある
ようだけど
あ〜ん
ひめ…
もっ
立ち直れ
な〜い
まあまあ
おっしゃいます
何を
曄姫
そんなこと…
ソンナコト!?
お二人はずっと昔からの
幼なじみですもの
誰よりも
お互いが大事であたりまえ
かくいう私も
心から薔さまを
愛しておりますヨ♡

曄姫と萌葱姫は
お互いどうなのです？

モチロン
大好き♡

大親友
ですわぁ〜ん

……

曇さまは
東皇使さまも
透さまも夕姫さまも
とぉっても愛して
らっしゃいます

むろん
お二人のことも
大好きですよ♡

そうそう
つまりアレだ

「好き」にはいろんな
種類があるが　どれも
かけがえがない

オレはおまえが好きだが
后にしたいとかいうのとは違う

…まあ　そんな
ようなことだ

そ…そうか…
なんだか　よく
わからなくなって
きましたけど

それはそれで
幸せそうかも…

ろ…論点が…


ところで東雲なんでおまえがここにいる？
天界に戻ったハズでは…
いや…
だって…
誤解しないで聞いてほしいんだが
私は別に嚆姫のことはキライじゃないよ
むしろ好きだ
…でも后にしたいとは思わない…
私だっていちおう嚆姫が心配だったからね
心配してくださったのですか？
えっ
ホラ
ぁ
でも「好き」だって…
かが――ん
このバアイ私喜ぶべきなのでしょうか悲しむべきなのでしょうか
せっかくだから喜んどけ！
どうなさいました萌葱姫…
……
ん――……

なんだか混乱してきてしまいました…

そんなに「好き」にいくつもの種類があるとしたらどういう気持ちが真の恋と呼べるものなのでしょうか

……

いずれわかるよ

それはまあ…

してみなければわからない……

そうですとも焦る必要はございません

萌葱姫ならこれから先いくらでも

……

そうでしょうか

んーと…

んーと…？

帰るぞ

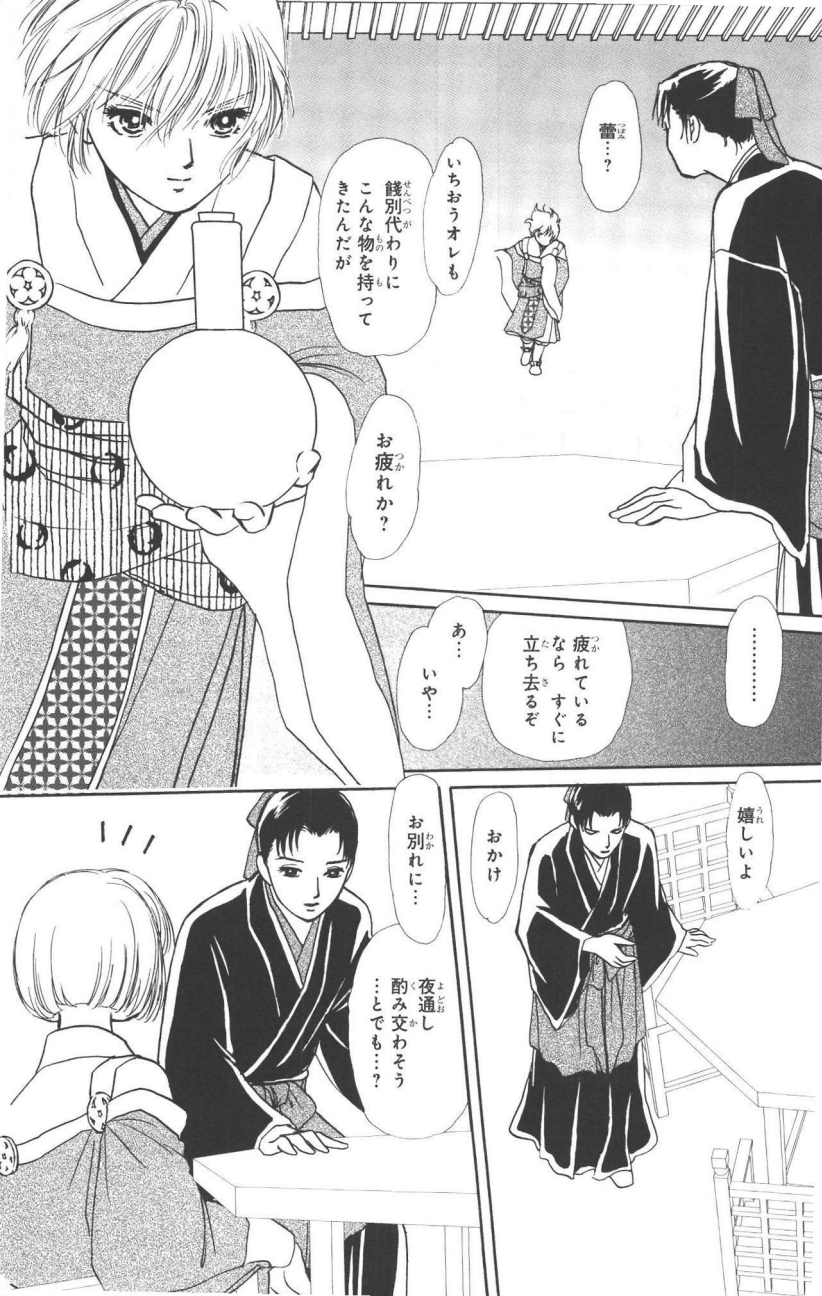
嘩

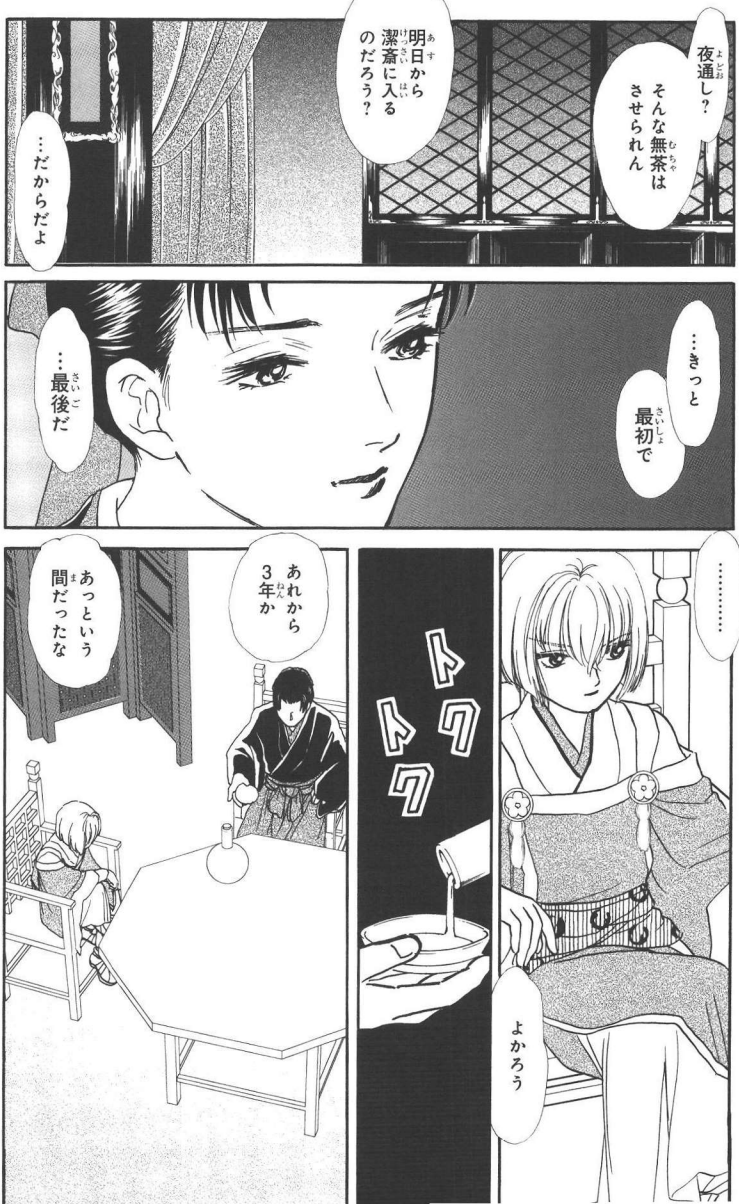

まったく
人騒がせな
ヤツだ
だって…
もうじき
東皇使さまは
円時山に行って
しまわれるのに…
そんなに
愛しいなら
ヤツが
円時山から
戻るまで
待ってみたら
どうなんだ
えっ
つ…
蕾!?
できるんじゃ
ないのか?
心の中のその場所に
その人以外の誰を入れても
満たされないなら
本当に絶対
差し替えのきかない
唯一の相手だと
思うのなら
…蕾…
百年でも千年でも…
蕾さま…
ひゃ…百年や
千年は長すぎ
ますう〜〜〜

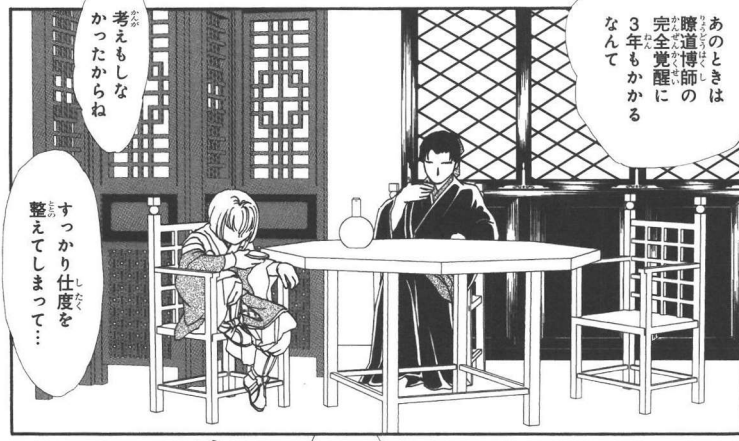

百年でも……
千年でも……
どうした？
行こう 萌葱
…はい…
ナヌ!?
薫さまが!?
ああ
だ！っ
ムダだよ
もう天界にお戻りさ
あぁ〜ん


東皇使さま
円時山入室
心よりお祝い
申し上げます
おめでとう
ございます
この度は
まことに…
おょろこび
申し上げます
いやあ〜〜
さすがですな
祝福する
客人が
ひきもきらず
大忙しで
ございます
皆さま
ありがとう
ございます


しかし
惜しいとも
思えますなぁ
あれほど
東皇使に
適任のお方は
まず なかなか…
たしかにのう
お疲れで
ございましょう
皇子さま
いや…私は
大丈夫
もう下がって
休むといい
では…
失礼いたします
フウ
ただでさえ
出立前だと
いうのに
ご苦労な
ことだな
おまえたちこそ
疲れただろう

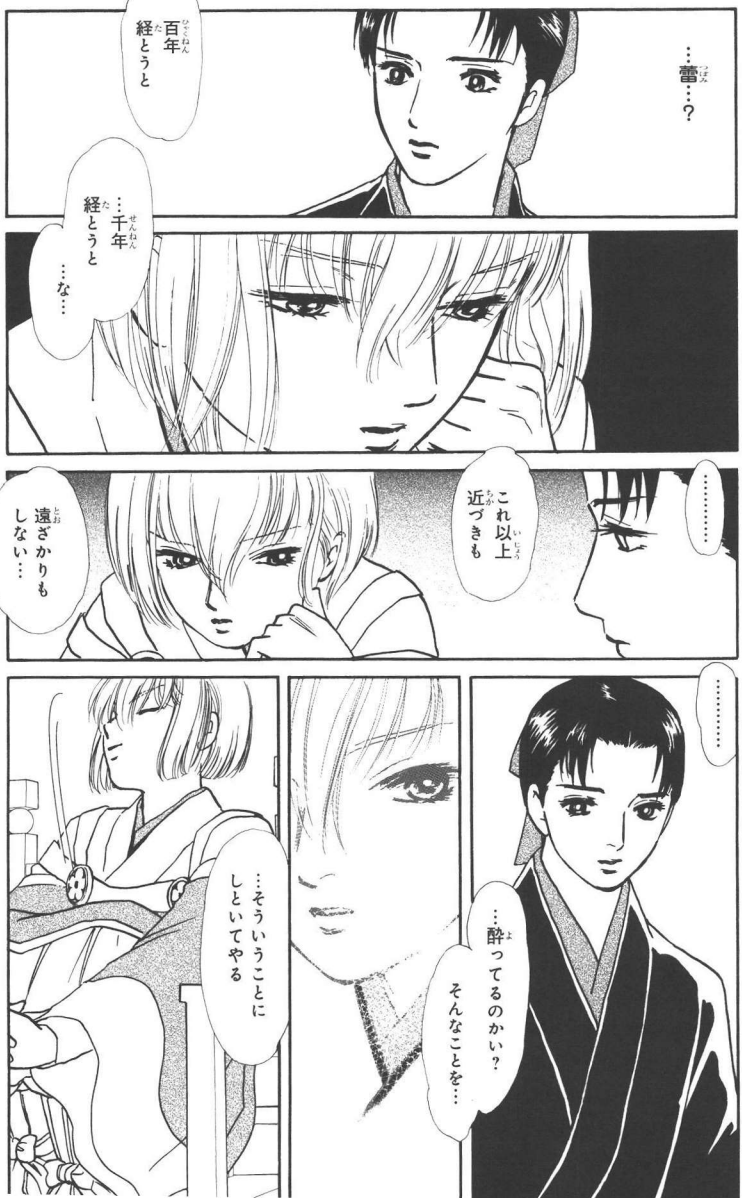

蕾…？
いちおうオレも
餞別代わりに
こんな物を持って
きたんだが
お疲れか？
……
疲れている
なら すぐに
立ち去るぞ
あ…
いや…
嬉しいよ
おかけ
お別れに…
夜通し
酌み交わそう
…とでも…？

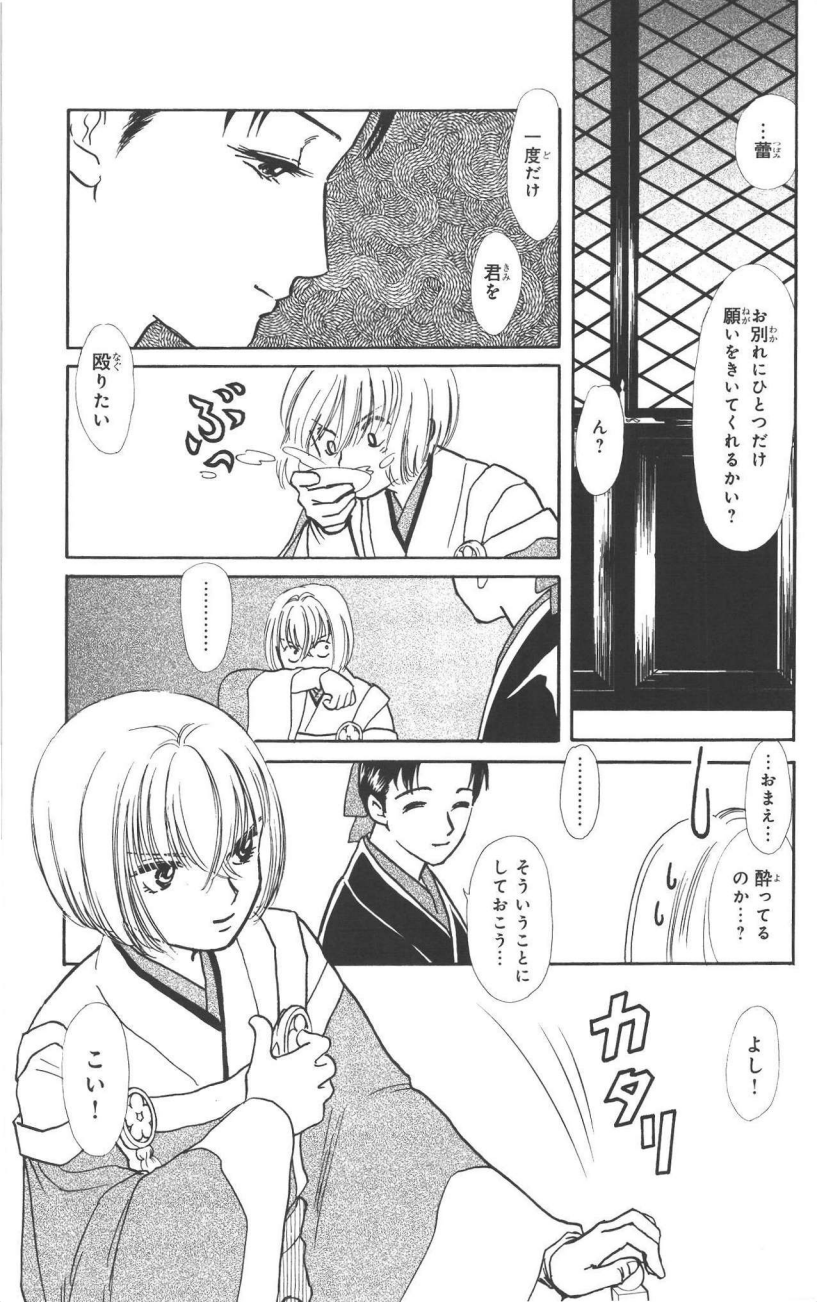

夜通し？
そんな無茶はさせられん
明日から潔斎に入るのだろう？
…だからだよ
…きっと最初で
…最後だ
……
トク
トク
よかろう
あれから3年か
あっという間だったな


あのときは
瞭道博師の
完全覚醒に
3年もかかる
なんて
考えもしな
かったからね
すっかり仕度を
整えてしまって…

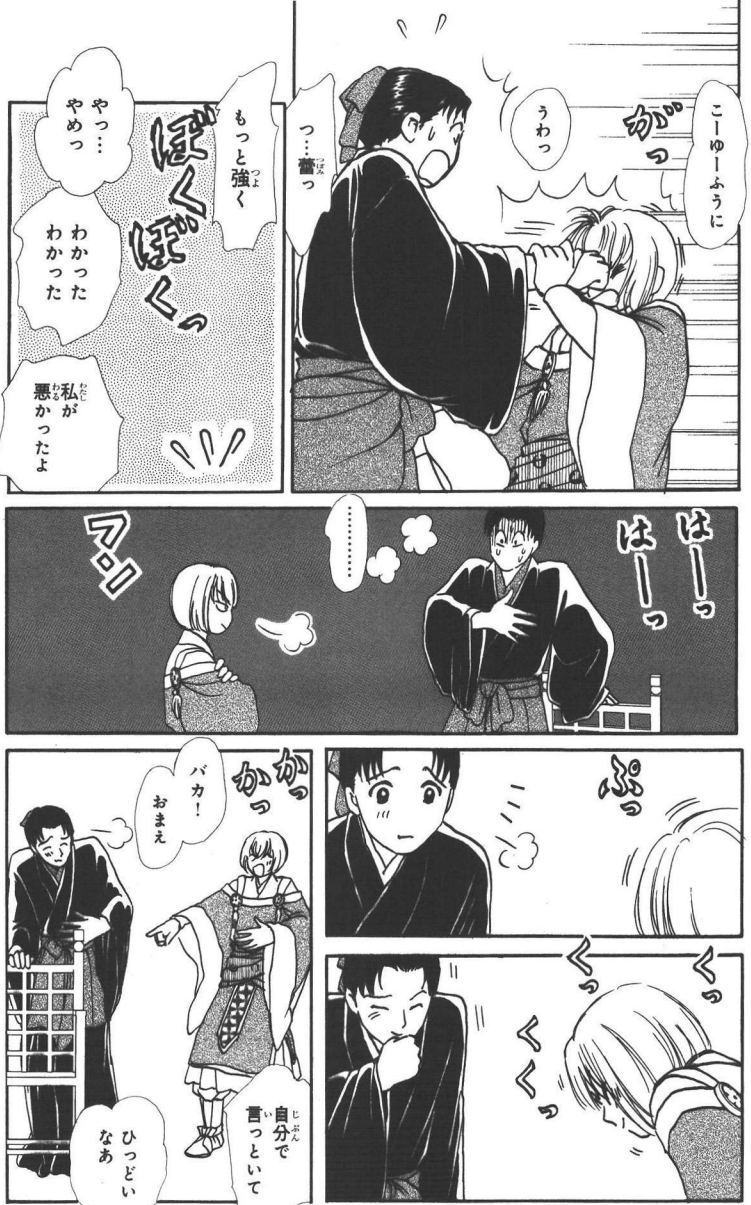

ずいぶん拍子抜け
してしまったよ
…そう…
すっかりお別れ
するつもりだった
だから あんな話を
してしまったんだ
ふん…まさか今度も
「実はまだ先でした」
なんて
がふ
がふ
なりや
しない
だろな
今度はまちがいないよ…
…雷
けふっ
ペース
早いよ


あのときはあんな話をしてしまった後でカオをあわせるのは気まずいのでは…と思ったけど
君はあの後もまったく変わらず接してくれて
だいたい これは君が飲むために持ってきた物ではないだろう？
ホッとした…
ドボボ
ドッ
あっ
あぁくん？
このくらいなんてことない
ぐびっ
…なあ 東雲…
チャプン
うわっ 半分以下
ん？
…何があっても…変わらないぞ…
…おまえとオレの関係は……


…雷…？
百年経とうと
…千年経とうと
…な…
これ以上近づきも
遠ざかりもしない…
……
……
…酔ってるのかい？
そんなことを…
…そういうことにしといてやる

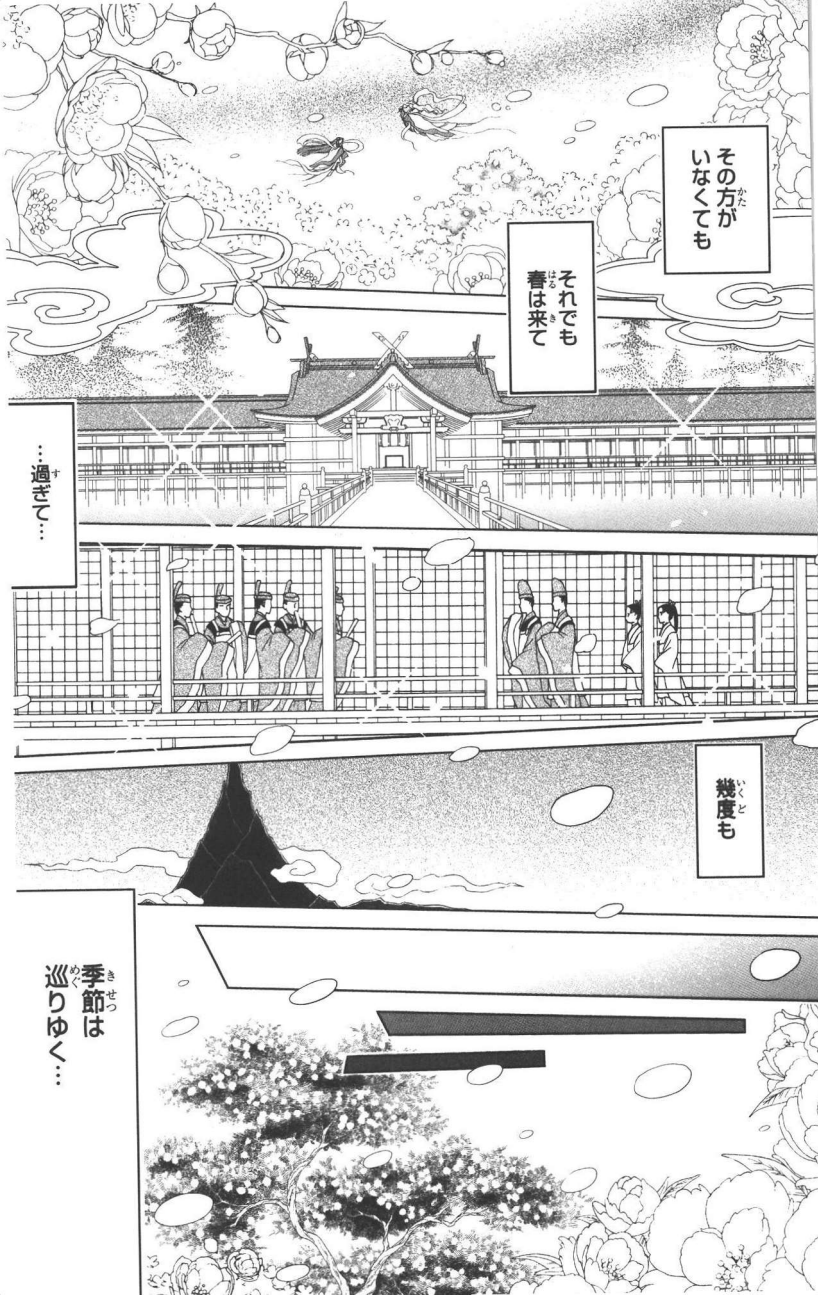

…蕾
お別れにひとつだけ
願いをきいてくれるかい？
ん？
一度だけ
君を
殴りたい
ぶっ
……
…おまえ…
酔ってるのか…？
……
しーん
そういうことにしておこう…
よし！
カタリ
こい！


ミノヤッ
ピタ
……
ペち
なんだぁ〜？
その「ペチ」は!!
ぷぁ…
いや…
あはは
いいか！
殴るって
のは…
ぐぃ


こーゆーふうに
がっ
うわっ
つ…奮っ
もっと強く
ぼくぼくっ
やっ…
やめっ
わかった
わかった
私が悪かったよ
はーっ
はーっ
……
フ…
ぷっ
くっ
くっくっ
かっ
かっ
バカ！
おまえ
自分で言っといて
ひっどいなあ


結局 仇は
うてないのか…
ずっとボコボコに
されてきたのに…
無理無理
カッカッカッ
おまえには…
カタリ
あはは…
…は…
……
…ありがとう…
……
せいぜい
がんばれ
修業
次に会うときは
そんな口が
きけない相手に
なってくるよ


忘れるな
おまえにもあるんだぞ
オレの中の
おまえでなくては埋まらない場所
……雷……


その方がいなくても
それでも春は来て
…過ぎて…
幾度も
季節は巡りゆく…

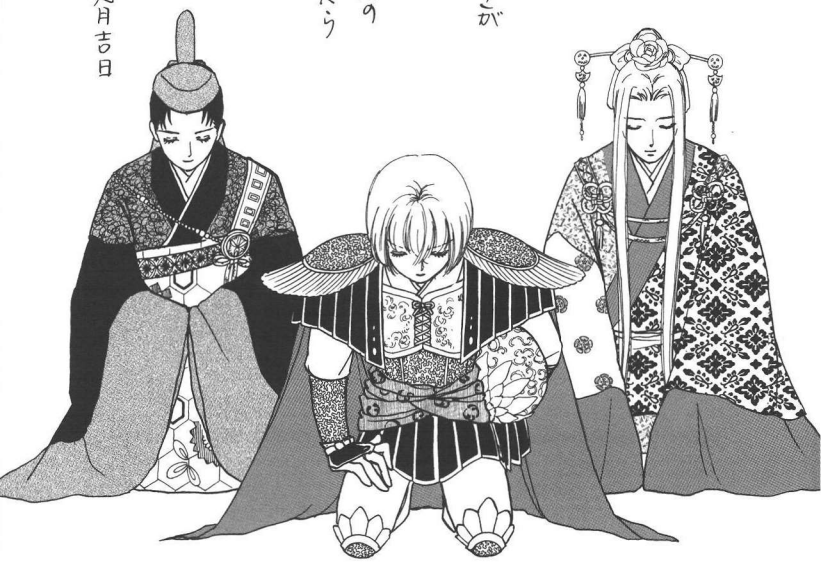

なんだ
転んだのか
泣くな
男の子だろ
甘やかしすぎ
じゃないのか
透
蕾…
あら
蕾ちゃま
いらっしゃい
カサリ
ツイー
あ〜〜ん
あ〜〜ん


やあ
久しぶり
えええっ
東雲!?
なっ…なんでおまえが……
ひゃ…ひゃくねん?
いやーフツーで百年だから私なら20年かなと思っていたけど
たった8年で
卒業できてしまったよ
ガス
バッキャロー——
あいかわらずヤな野郎だぜ
同感…
パパのお友達
あれ誰?
春指南Ⅲ／完

――ごあいさつ――

長い間 ご愛読 下さいまして まことに
ありがとうございました。
ガ一話を発表した時点ではほたして続きが
描けるかどうかという状態でした。
今考えると 不思議な気持ちです。
いつまでも このBUDワールドが皆さまの心の
片隅に一輪の花を添える事ができましたら
この上なく光栄です。
本当にありがとうございました。

平成二十一年九月吉日



「BUD BOY＜番外編＞春指南」／完



PRINCESS COMICS

BUD BOY

＜番外編＞春指南

平成21年11月30日　初版発行

著　者　市東亮子

発行者　秋田貞美

発行所　株式会社 秋田書店

〒102-8101　東京都千代田区飯田橋2-10-8
☎編集(03)3265-7367　販売(03)3264-7248
製作(03)3265-7373
振替口座　00130-0-99353

印刷所　赤城印刷株式会社

造本には十分注意しておりますが、落丁・乱丁(本のページの抜け落ちや順序の間違い)の場合は、購入された書店名を記入の上、「販売部」宛にお送りください。送料小社負担にてお取り替えいたします。ただし、古書店で購入したものはお取り替えできません。

(禁／無断転載・放送・上映・上演・複写・公衆送信)　©R.SHITO 2009
Printed in Japan

ISBN978-4-253-19219-4

PRINCESS COMICS
秋田書店

9784253192194

ISBN978-4-253-19219-4
C9979 ¥400E (0)

1929979004002

雑誌 40243－18
秋田書店
定価：本体400円＋税

PRINCESS COMICS
プリンセス・コミックス

